

令和4年度

全国学力・学習状況調査結果の概要

令和4年7月

高知県教育委員会

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ◇ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ◇ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(2) 実施日 令和4年4月19日(火)

(3) 調査内容

- ◇ 小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒を対象
- ◇ 教科に関する調査は、国語、算数・数学、理科を出題

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

- ◇ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査を実施

(4) 県内(公立学校)の参加状況

- ◇ 参加学校数

小学校

市町村(学校組合)立小学校	義務教育学校	特別支援学校(小学部)	合計
178校	4校	2校	184校

中学校

市町村(学校組合)立中学校、 県立中学校	義務教育学校	特別支援学校(中学部)	合計
93校	4校	5校	102校

<参加校数>

・小中学校	271校
・義務教育学校	4校
・特別支援学校	5校
計	280校

※義務教育学校は、小・中学校の義務教育を9年間の一貫したカリキュラムで運営する学校であり、小・中ともに実施する学校が4校であるため、合計が4校となっている。

※特別支援学校は、1校の中に小学部や中学部があり、小学部・中学部ともに実施する学校が2校、中学部のみ実施する学校が3校であるため、合計が5校となっている。

※新型コロナウイルス感染症による後日実施校数 小学校3校

- ◇ 小学校解答(回答)児童数

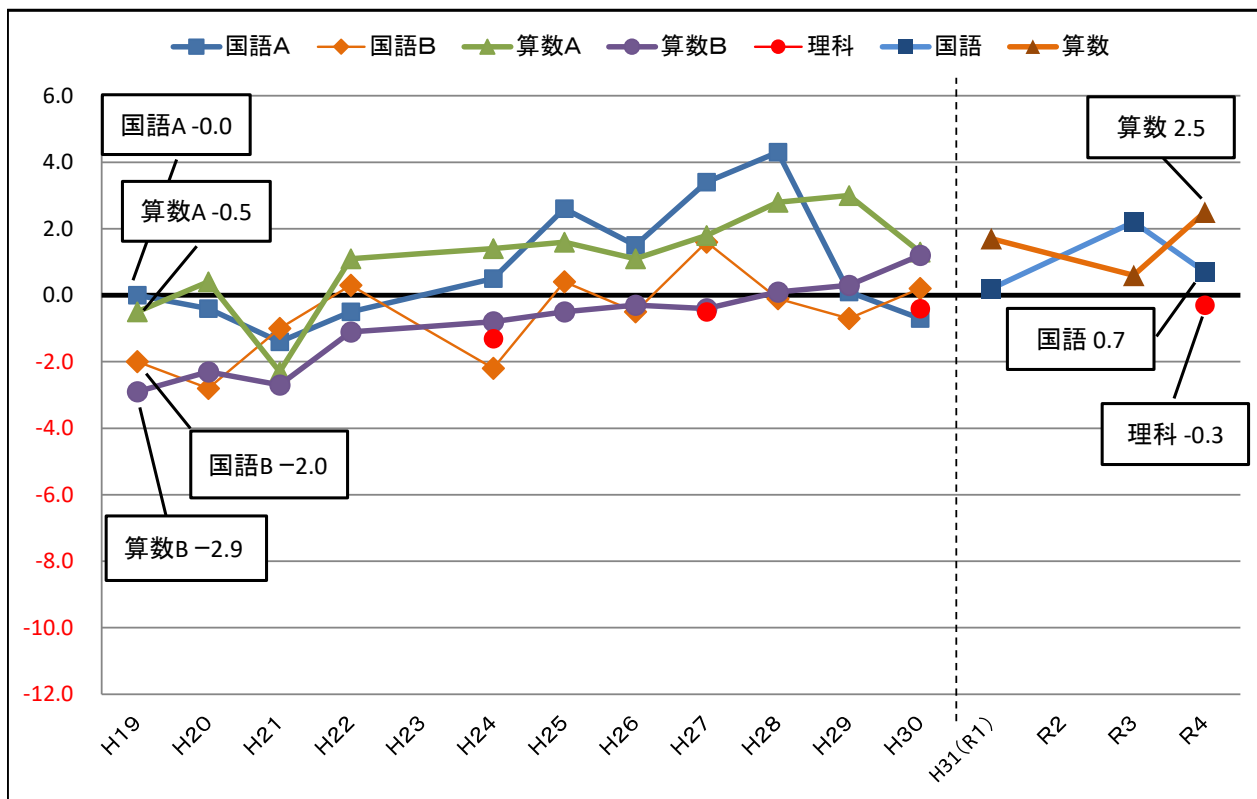
国語	4,779名
算数	4,777名
理科	4,780名
児童質問紙	4,793名

- ◇ 中学校解答(回答)生徒数

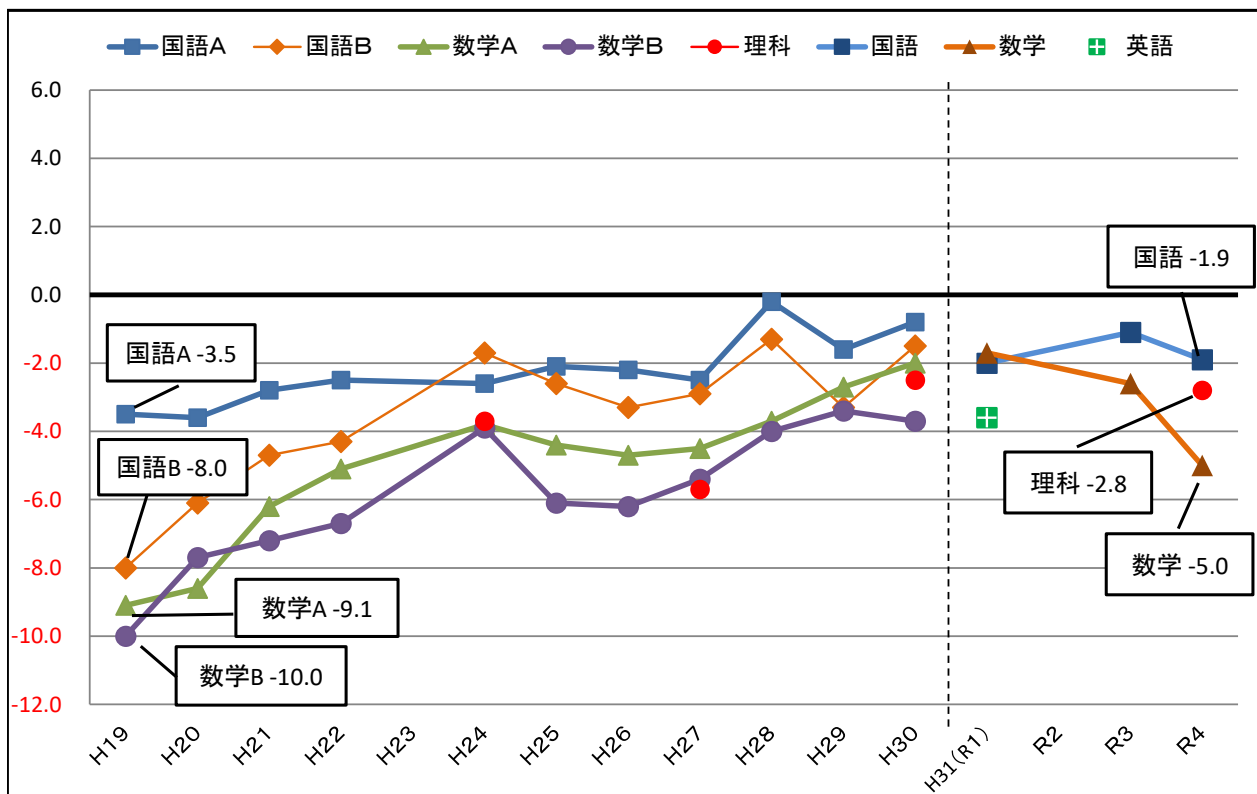
国語	3,921名
数学	3,919名
理科	3,925名
生徒質問紙	3,932名

平成19年～令和4年度 全国平均正答率との差(高知県平均正答率)

小学校調査



中学校調査



※縦軸は全国の平均正答率との差をポイントで示している。(平成23年度の全国の値はない。)

※平成31年度(令和元年度)よりABが統合。

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止している。

教科別平均正答率【小学校】

小学校(国語・算数)						
	国語平均正答率(%)		高知県と全国の差	算数平均正答率(%)		高知県と全国の差
	高知県(公立)	全国(公立)		高知県(公立)	全国(公立)	
令和4年度	66.3	65.6	0.7	65.7	63.2	2.5
令和3年度	66.9	64.7	2.2	70.8	70.2	0.6
平成31(令和元)年度	64.0	63.8	0.2	68.3	66.6	1.7

		国語平均正答率(%)		高知県と全国の差	算数平均正答率(%)		高知県と全国の差
		高知県(公立)	全国(公立)		高知県(公立)	全国(公立)	
A	平成30年度	70.0	70.7	-0.7	64.8	63.5	1.3
	平成29年度	74.9	74.8	0.1	81.6	78.6	3.0
	平成28年度	77.2	72.9	4.3	80.4	77.6	2.8
	平成27年度	73.4	70.0	3.4	77.0	75.2	1.8
	平成26年度	74.4	72.9	1.5	79.2	78.1	1.1
	平成25年度	65.3	62.7	2.6	78.8	77.2	1.6
	平成24年度	82.1 (81.5~82.7)	81.6 (81.4~81.7)	0.5	74.7 (73.9~75.6)	73.3 (73.1~73.5)	1.4
	平成23年度	81.0			82.3		
	平成22年度	82.8 (82.2~83.5)	83.3 (83.2~83.5)	-0.5	75.3 (74.3~76.3)	74.2 (74.0~74.4)	1.1
	平成21年度	68.5	69.9	-1.4	76.4	78.7	-2.3
	平成20年度	65.0	65.4	-0.4	72.6	72.2	0.4
	平成19年度	81.7	81.7	0.0	81.6	82.1	-0.5
B	平成30年度	54.9	54.7	0.2	52.7	51.5	1.2
	平成29年度	56.8	57.5	-0.7	46.2	45.9	0.3
	平成28年度	57.7	57.8	-0.1	47.3	47.2	0.1
	平成27年度	67.0	65.4	1.6	44.6	45.0	-0.4
	平成26年度	55.0	55.5	-0.5	57.9	58.2	-0.3
	平成25年度	49.8	49.4	0.4	57.9	58.4	-0.5
	平成24年度	53.4 (52.4~54.3)	55.6 (55.4~55.8)	-2.2	58.1 (57.1~59.1)	58.9 (58.7~59.1)	-0.8
	平成23年度	44.3			46.2		
	平成22年度	78.1 (77.2~79.0)	77.8 (77.7~78.0)	0.3	48.2 (47.2~49.2)	49.3 (49.1~49.5)	-1.1
	平成21年度	49.5	50.5	-1.0	52.1	54.8	-2.7
	平成20年度	47.7	50.5	-2.8	49.3	51.6	-2.3
	平成19年度	60.0	62.0	-2.0	60.7	63.6	-2.9

小学校(理科)			
	理科平均正答率(%)		高知県と全国の差
	高知県(公立)	全国(公立)	
令和4年度	63.0	63.3	-0.3
平成30年度	59.9	60.3	-0.4
平成27年度	60.3	60.8	-0.5
平成24年度	59.6 (58.8~60.4)	60.9 (60.8~61.1)	-1.3

※平成22・24年度は抽出調査のため、平均正答率の推計値で示している。

()の数値は平均正答率の95%信頼区間を示している。

※平成23年度は全国学力・学習状況調査問題を活用した希望利用調査の結果を示している。

※平成31年度よりAB統合

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止している。

教科別平均正答率【中学校】

中学校(国語・数学)						
	国語平均正答率(%)		高知県と 全国の差	数学平均正答率(%)		高知県と 全国の差
	高知県(公立)	全国(公立)		高知県(公立)	全国(公立)	
令和4年度	67.1	69.0	-1.9	46.4	51.4	-5.0
令和3年度	63.5	64.6	-1.1	54.6	57.2	-2.6
平成31(令和元)年度	70.8	72.8	-2.0	58.1	59.8	-1.7

		国語平均正答率(%)		高知県と 全国の差	数学平均正答率(%)		高知県と 全国の差
		高知県(公立)	全国(公立)		高知県(公立)	全国(公立)	
A	平成30年度	75.3	76.1	-0.8	64.1	66.1	-2.0
	平成29年度	75.8	77.4	-1.6	61.9	64.6	-2.7
	平成28年度	75.4	75.6	-0.2	58.5	62.2	-3.7
	平成27年度	73.3	75.8	-2.5	59.9	64.4	-4.5
	平成26年度	77.2	79.4	-2.2	62.7	67.4	-4.7
	平成25年度	74.3	76.4	-2.1	59.3	63.7	-4.4
	平成24年度	72.5 (71.8~73.1)	75.1 (75.0~75.2)	-2.6	58.3 (57.4~59.2)	62.1 (62.0~62.3)	-3.8
	平成23年度	78.5			54.3		
	平成22年度	72.6 (72.0~73.3)	75.1 (75.0~75.2)	-2.5	59.5 (58.3~60.7)	64.6 (64.4~64.8)	-5.1
	平成21年度	74.2	77.0	-2.8	56.5	62.7	-6.2
	平成20年度	70.0	73.6	-3.6	54.5	63.1	-8.6
	平成19年度	78.1	81.6	-3.5	62.8	71.9	-9.1
B	平成30年度	59.7	61.2	-1.5	43.2	46.9	-3.7
	平成29年度	68.9	72.2	-3.3	44.7	48.1	-3.4
	平成28年度	65.2	66.5	-1.3	40.1	44.1	-4.0
	平成27年度	62.9	65.8	-2.9	36.2	41.6	-5.4
	平成26年度	47.7	51.0	-3.3	53.6	59.8	-6.2
	平成25年度	64.8	67.4	-2.6	35.4	41.5	-6.1
	平成24年度	61.6 (60.9~62.3)	63.3 (63.2~63.4)	-1.7	45.4 (44.3~46.6)	49.3 (49.2~49.5)	-3.9
	平成23年度	61.0			45.2		
	平成22年度	61.0 (60.0~62.1)	65.3 (65.1~65.5)	-4.3	36.6 (35.4~37.9)	43.3 (43.1~43.5)	-6.7
	平成21年度	69.8	74.5	-4.7	49.7	56.9	-7.2
	平成20年度	54.7	60.8	-6.1	41.5	49.2	-7.7
	平成19年度	64.0	72.0	-8.0	50.6	60.6	-10.0

中学校(理科)			
	理科平均正答率(%)		高知県と 全国の差
	高知県(公立)	全国(公立)	
令和4年度	46.5	49.3	-2.8
平成30年度	63.6	66.1	-2.5
平成27年度	47.3	53.0	-5.7
平成24年度	47.3 (46.5~48.0)	51.0 (50.9~51.1)	-3.7

※平成22・24年度は抽出調査のため、平均正答率の推計値で示している。

()の数値は平均正答率の95%信頼区間を示している。

※平成23年度は全国学力・学習状況調査問題を活用した希望利用調査の結果を示している。

※平成31年度よりAB統合

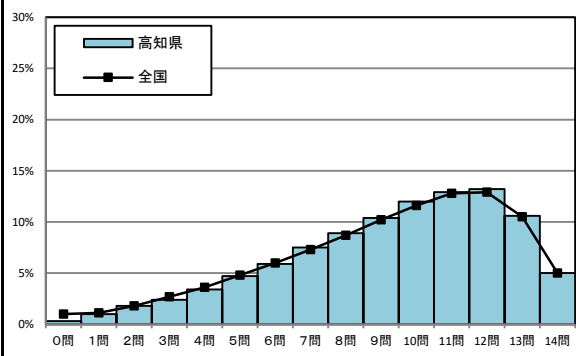
※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止している。

各教科に関する学力の状況

[小学校国語]

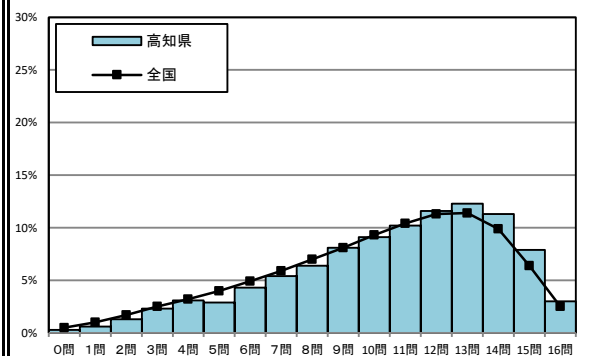
正答数分布の状況

国語	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	4,779	9.3/14	66.3%	10.0	3.1
全国	965,308	9.2/14	65.6%	10.0	3.3

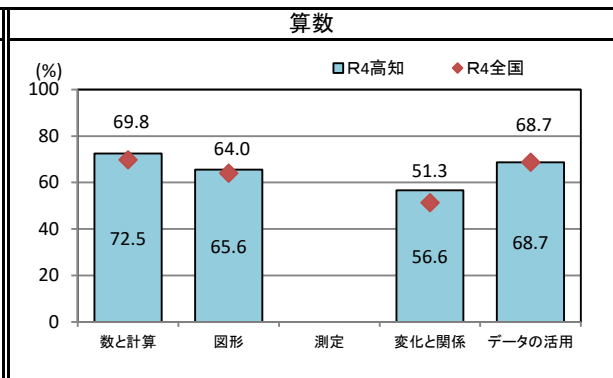
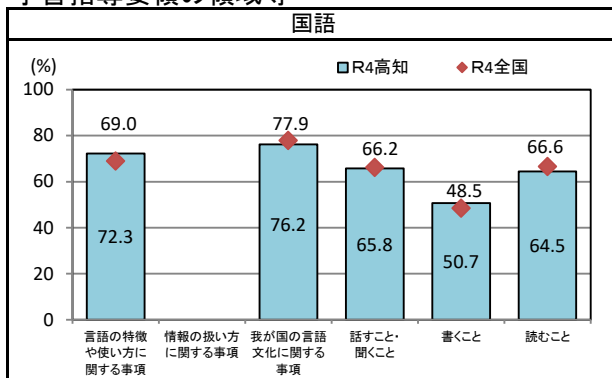


[小学校算数]

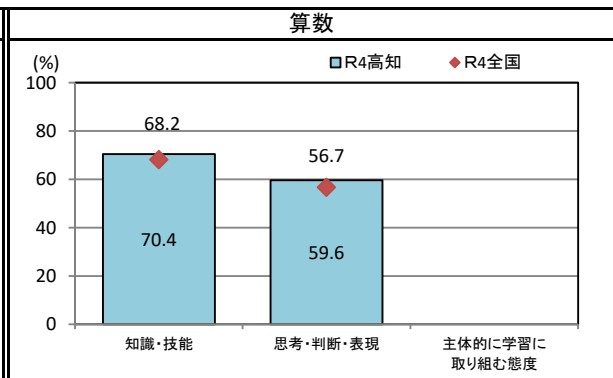
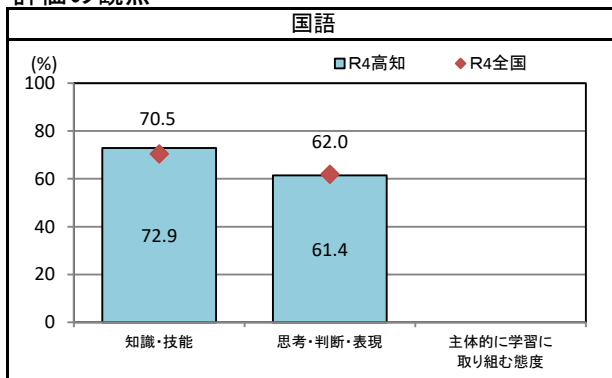
算数	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	4,777	10.5/16	65.7%	11.0	3.5
全国	965,431	10.1/16	63.2%	11.0	3.6



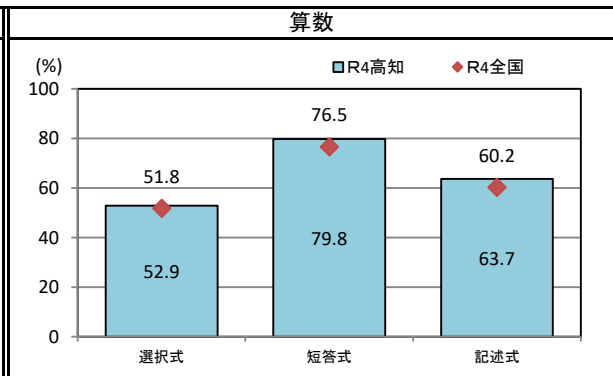
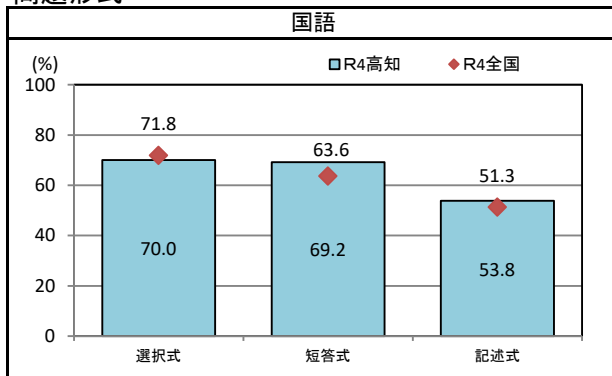
学習指導要領の領域等



評価の観点



問題形式

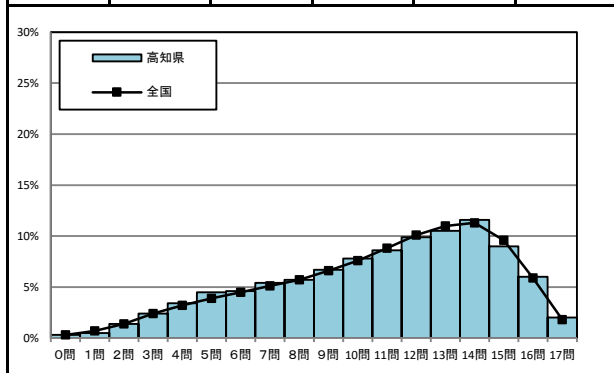


各教科に関する学力の状況

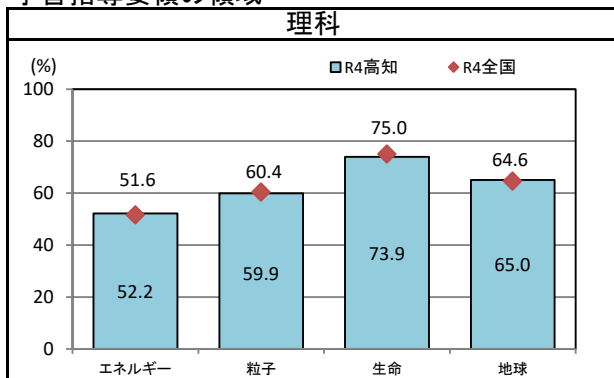
[小学校理科]

正答数分布の状況

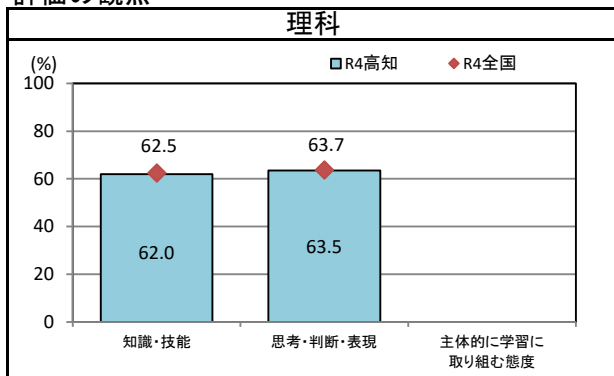
理科	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	4,780	10.7/17	63.0%	11.0	3.8
全国	965,761	10.8/17	63.3%	11.0	3.8



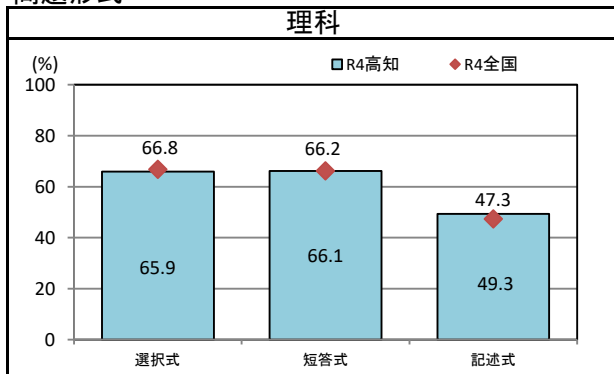
学習指導要領の領域



評価の観点



問題形式

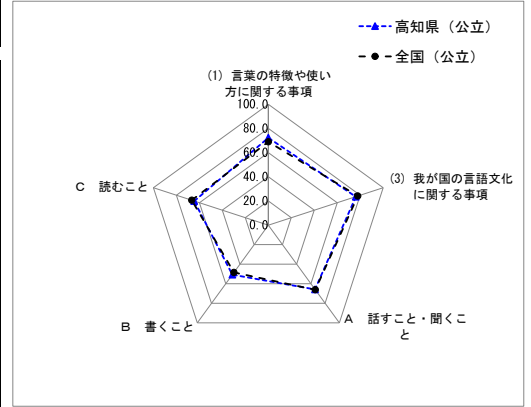


・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	高知県（公立） 183	全国（公立） 18,668	対象児童数	高知県（公立） 4,779	全国（公立） 965,308
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			高知県（公立）	全国（公立）	
全体			14	66.3	65.6
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	72.3	69.0
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0		
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	76.2	77.9
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	2	65.8	66.2
B 書くこと		2	50.7	48.5	
C 読むこと		4	64.5	66.6	
評価の観点	知識・技能	6	72.9	70.5	
	思考・判断・表現	8	61.4	62.0	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	8	70.0	71.8	
	短答式	3	69.2	63.6	
	記述式	3	53.8	51.3	

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>



※「学習指導要領の内容」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点	問題形式	正答率(%)			無解答率(%)		
			知識及び技能					高知県（公立）	全国（公立）	全国正答率との差	高知県（公立）	全国（公立）	
			(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	(2) 情報の扱い方に関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項								
1一	【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉との違いを理解する	5・6 イ			○	○	○	84.7	85.5	-0.8	0.3	0.9
1二	【話し合いの様子の一部】における谷原さんや中村さんの発言の理由として適切なものを選択する	言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える	5・6 ア			○	○	○	69.2	68.8	0.4	0.3	1.0
1三	【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する	必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える			3・4 エ	○	○	○	82.8	84.7	-1.9	0.4	1.0
1四	「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、 <input type="checkbox"/> でどのように話すかを書く	互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる			5・6 オ	○		○	48.7	47.7	1.0	2.3	3.0
2一(1)	「ぼく」の気持ちの説明として適切なものを選択する	登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える							66.3	68.4	-2.1	0.3	1.0
2一(2)	「老人」が未来の「ぼく」と考えられるところとして適切なものを選択する	登場人物の相互関係について、描写を基に捉える							66.8	70.6	-3.8	0.7	1.6
2二	物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】の <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> に入る内容を書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像する							69.3	68.3	1.0	9.1	12.2
2三	【山村さんの文章】の <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> に入る内容として適切なものを選択する	表現の効果を考える							55.8	59.2	-3.4	1.8	3.2
3一	【文章2】の.....の部分で、どのように気を付けて書いたのか、適切なものを選択する	文章全体の構成や書き方などに着目して、文や文章を整える							58.1	59.2	-1.1	1.0	2.5
3二	【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける							43.3	37.7	5.6	9.9	14.5
3三ア	【文章2】の中の——部アを、漢字を使って書き直す（ろくが）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う	5・6 エ			○		○	71.0	65.2	5.8	4.3	8.1
3三イ	【文章2】の中の——部イを、漢字を使って書き直す（ほんせい）		5・6 エ			○		○	65.9	58.7	7.2	5.0	10.2
3三ウ	【文章2】の中の——部ウを、漢字を使って書き直す（したしむ）		5・6 エ			○		○	70.6	67.1	3.5	8.7	14.7
3四	(一) から (二) に書き直した際、気を付けた内容として適切なものを選択する	漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く			3・4 エ(イ)	○		○	76.2	77.9	-1.7	2.5	5.9

令和4年度全国学力・学習状況調査 成果がみられた問題 小学校国語

問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)	
				高知県	全国正答率との差
選択	1三	【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する。	必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える。	82.8	-1.9

< 分析・考察 >

【話し合いの様子の一部】の中村さんと前田さんとのやり取りを踏まえ、中村さんが聞きたいことの中心が「ペンキを塗り直すことが、公園をきれいにすることにつながる理由」であることを捉えている児童が8割を超えている。このことから、目的を明確にし、それに沿って話し合う指導や、聞いたことで分からない点や確かめたい点について質問させながら、自分の考えをまとめさせる指導が浸透してきていると考えられる。



授業改善のポイント

話し合いの目的と話し手の意見に着目して、話の中心を捉え、自分の考えをもたせる。

< 指導例 >

話の中心を捉えるために、目的を明確にしながらかきととも、必要な事柄をメモに記録しながら聞いたり、聞いた事柄に対して分からない点や確かめたい点などを質問させたりする。その際、聞いたことを発表する機会を設けて、記録や質問が十分なものであったかどうかを確認させる。さらに、話の内容を聞くだけにとどまらず、話の内容を予想して聞いたり、聞いた内容を自分が知っていることと比べさせたりしながら、自分の考えをもてるようにする。

1 問ごとの手紙では、地域のためにできることについて話し合うことになりました。両さんのグループでは、話し合いの中心にある公園をきれいにすることについて話し合っています。

2 【話し合いの様子】をご覧ください。

3 【話し合いの様子】をご覧ください。

4 【話し合いの様子】をご覧ください。

【話し合いの様子】「公園をきれいにしよう」

中村さん：僕は、公園の遊具のペンキを塗り直したいと思っています。

前田さん：どうして、公園の遊具のペンキを塗り直す必要があるんですか？

中村さん：公園のすべり台やジャングルジムは、できたら新しくしたいです。でも、どれも壊れてしまっています。そこで、自分たちだけでできるかどうかは気がかりです。聞いてほしいです。工場のひとりでペンキを塗り直したいと思っています。公園をきれいにしたいです。

【話し合いの様子】「公園をきれいにしよう」

前田さん：公園をきれいにしたい理由は何ですか？

中村さん：公園をきれいにすると、みんなが気持ちよく使えます。

【話し合いの様子】「公園をきれいにしよう」

前田さん：公園をきれいにすると、みんなが気持ちよく使えます。でも、ペンキを塗り直すのは、お金がかかります。どうやってお金を集めますか？

中村さん：公園の遊具のペンキを塗り直すのは、お金がかかります。でも、公園をきれいにすると、みんなが気持ちよく使えます。公園をきれいにしたいです。

【話し合いの様子】「公園をきれいにしよう」

前田さん：公園をきれいにしたい理由は何ですか？

中村さん：公園をきれいにすると、みんなが気持ちよく使えます。でも、ペンキを塗り直すのは、お金がかかります。どうやってお金を集めますか？

中村さん：公園の遊具のペンキを塗り直すのは、お金がかかります。でも、公園をきれいにすると、みんなが気持ちよく使えます。公園をきれいにしたいです。

付けたい力

必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え自分の考えをもつことができる。

① 話し合いの目的を明確にし、目的に応じて必要なことをメモに記録させたり、分からない点や確かめたい点を質問させたりしながら聞かせることで、話の中心を捉える力を育てる。

② 話の内容を予想して聞かせたり、聞いた内容と自分が知っていることを比べさせたりして、自分の考えをもつ力を育てる。

目的

◎公園を自分たちできれいにすることで、たくさんの人に気持ちよく使ってほしい。

メモ

ペンキ塗り	花植え	ごみ拾い	アイデア
△明るい	△おもしろい	△おもしろい	○よい点 △問題点
△おもしろい	△おもしろい	△おもしろい	
△おもしろい	△おもしろい	△おもしろい	

なぜ塗るのかしら・・・
質問してみよう



遊具のペンキを塗り直したいと思っています。

予想 自分たちだけで、できるかなあ。

自分が知っていること

でも、あの公園の遊具はたしかに色がはがれていたわ。



考え

公園が明るくなるので、ペンキを塗り直すことが良いと考えました。できるかどうかは、管理人さんや家の人に相談するとういと思っています。

令和4年度全国学力・学習状況調査 課題がみられた問題 小学校国語

問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)	
				高知県	全国正答率との差
選択	2 三	【山村さんの文章】の B に入る内容として適切なものを選択する。	表現の効果を考える。	55.8	-3.4

< 分析・考察 >

最後の一文にある表現に着目し、その表現が物語のどの事柄を印象付けているのかについて考えることが十分にできていない。このことから、文学的な文章を読む際に、人物像や物語などの全体像と関わらせながら、様々な表現が読み手に与える効果を考えさせる指導が十分でないことがうかがえる。

授業改善のポイント

複数の言葉に着目させ、人物像や物語の全体像と関わらせながら、表現の効果を考えさせる。

< 指導例 >

物語の全体像を想像するには、「どんな物語か」という内容だけでなく「どのように描かれているか」といった表現にも着目させたい。例えば、「物語の全文を掲載したシート」を活用し、人物の行動や会話、情景などを表す複数の言葉をつなぎながら、登場人物や場面設定を想像させる。そして、「心に残った表現とその効果を紹介しよう」といった学習課題を設定し、紹介するために使える言葉の例等を使わせながら、物語の全体像について想像したこと、自分の心に残った表現とその効果を関連付けて、自分の考えを明らかにさせる。

三 同じ字根の山村さん、「緑色の幻想」を読み、せいぜんする文章を書いています。次の「山村さんの文章」の B の中に入る内容として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【山村さんの文章】

この物語は、主人公の「ぼく」が夢の中で見た世界のことです。【A】が描かれていて、【B】が描かれていて、【C】が描かれていて、【D】が描かれています。

1 色の表現を使い、季節が変わったことを印象付けている。

2 「ぼく」が体験した信じられないような出来事を印象付けている。

3 空と風を表す表現を使い、「ぼく」が宇宙に行った不思議さを印象付けている。

4 「ぼく」が過去から現在にもどってきた安心感を印象付けている。

付けたい力

人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

① 人物像や物語の全体像を具体的に想像する力を育てる。【精査・解釈】

② 様々な表現が読み手に与える効果について自分の考えを明らかにする力を育てる。【精査・解釈】

全文を掲載したシート

大造じいさんとがん

がんの英雄よ

たかが鳥

いまいまく思っていた。

物語全体から人物の性格や考え方がわかるね。

物語の全体像

- 〇な表現を通して、人物の魅力が伝わってくる物語。
 - 〇な表現により、読む楽しさを味わえる物語。
 - 〇な表現が文章全体にちりばめられている物語。
 - 〇という言葉が人物の気持ちの変化を印象付けている物語。
- 表現とその効果を紹介するために使える言葉の例

★大造じいさんとがんを読んで心に残った表現とその効果を友達に紹介しよう



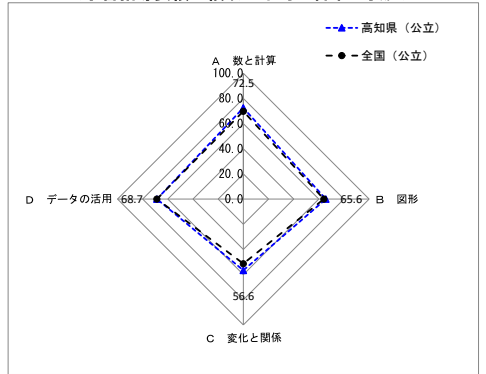
最後の場面の、「らんまん」と咲いた・・・という表現が心に残ったので、その表現が「大造じいさんの気持ちの変化を印象付けている」と紹介しようかな。

以下の集計値/グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	高知県(公立)	全国(公立)	対象児童数	高知県(公立)	全国(公立)
	183	18,667		4,777	965,431
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			高知県(公立)	全国(公立)	
全体		16	65.7	63.2	
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	72.5	69.8	
	B 図形	4	65.6	64.0	
	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	56.6	51.3	
	D データの活用	3	68.7	68.7	
評価の観点	知識・技能	9	70.4	68.2	
	思考・判断・表現	7	59.6	56.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	52.9	51.8	
	短答式	6	79.8	76.5	
	記述式	4	63.7	60.2	

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)					無解答率(%)		
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	高知県(公立)	全国(公立)	全国正答率との差	高知県(公立)	全国(公立)			
1(1)	1050×4を計算する	被乗数に空白のある整数の乗法の計算をすることができる	3(1) ア(ウ) 3(3) ア(イ) 4(7) ア(ア)										○			○	92.5	92.4	0.1	0.1	0.3
1(2)	14と21の最小公倍数を求める	二つの数の最小公倍数を求めることができる	5(1) ア(イ)											○			74.8	72.2	2.6	1.3	3.0
1(3)	カップケーキ7個分の値段を、1470÷3で求めることができるわけを書く	示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる	3(4) イ(ア) 4(3) ア(イ)											○			80.4	76.0	4.4	3.1	5.2
1(4)	85×21の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ	示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる	4(2) イ(ア)											○			38.2	34.8	3.4	0.3	0.9
2(1)	果汁が25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、果汁の量の割合を分数で表す	百分率で表された割合を分数で表すことができる				5(3) ア(イ)											79.7	71.1	8.6	1.9	3.9
2(2)	果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mLのときの、果汁の量を書く	百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる				5(3) ア(イ)											68.6	64.6	4.0	1.8	3.3
2(3)	果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ	示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している				5(3) ア(ア)											23.7	21.4	2.3	0.5	1.1
2(4)	果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180mL入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる				5(1) イ(ア)											54.2	48.0	6.2	3.5	5.5
3(1)	表のしりとり欄に入る数を求める式と答えを書く	表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる	4(6) ア(ア)														78.8	75.3	3.5	1.4	2.1
3(2)	分類整理されたデータから、全員の希望が一つは通るように、遊びを選ぶ	分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる															62.0	63.9	-1.9	0.7	1.6
3(3)	1年生と6年生が希望する遊びの割合を調べるためのグラフを選び、そのグラフから割合が一番大きい遊びを選ぶ	目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる															65.5	66.8	-1.3	1.4	2.2
3(4)	1年生の希望をよりかなえるためのポイント数の求め方と答えを書く	加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる	4(6) ア(ア) イ(ア)														70.2	67.7	2.5	5.8	8.6
4(1)	示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す	正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる	3(1) ア(ア) 4(5) ア(ア) イ(ア)														50.0	48.8	1.2	2.1	3.8
4(2)	長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く	図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している				2(1) ア(イ)											84.4	83.2	1.2	2.8	4.7
4(3)	辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことができるプログラムを選ぶ	図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している				4(1) ア(イ)											66.0	66.5	-0.5	2.4	4.6
4(4)	示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ	示された作図手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる	4(1) ア(イ) イ(ア)														61.9	57.6	4.3	2.7	5.1

令和4年度全国学力・学習状況調査 成果がみられた問題 小学校算数

問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)	
				高知県	全国正答率との差
記述	1 (3)	カップケーキ7個分の値段を、 $1470 \div 3$ で求めることができるわけを書く。	示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる。	80.4	+4.4

< 分析・考察 >

示された条件に沿って、「AだからBになる」のように、Aという理由及びBという結論を明確にして記述できている。このことから、式と答えが書ければよい、という指導ではなく、なぜその式が考えられるのか、なぜその答えになるのか、という考えの根拠を明確に表現していくことを重視する指導が浸透してきていることが考えられる。

授業改善のポイント

算数科における言語活動が充実した指導を重視していく。

< 指導例 >

問題文を絵や図に表したり、絵や図から式を見いだしたりできるような、言葉、絵や図、式が相互に関連し合った授業づくりをしていく。例えば、AセットとBセットのカップケーキの値段を比較する際、1個分の値段で比較する活動に留まらず、7個が縦1列に並ぶという箱の形状から、1列分（7個分）の値段で比較する、また、14も21も7の倍数であることに着目する等の活動を取り入れる。そうすることで、絵や図を基に様々な数量の関係に着目したり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするような算数科における言語活動を意識していく。

付けたい力

数量の関係に着目し、問題文を絵や図に表したり、絵や図から式を見いだしたりすることができる。

①数量の関係に着目できる子どもを育てる。

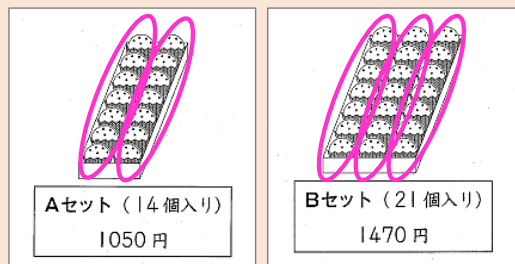
②計算に関して成り立つ性質を見いだせる子どもを育てる。

カップケーキ1個分の値段で比較
Aセット $1050 \div 14 = 75$
Bセット $1470 \div 21 = 70$

7個が縦に並んでいる箱のつくりは同じ

14も21も7の倍数

③見いだした性質を活用して計算を工夫できる子どもを育てる。



カップケーキ7個分（1列分）の値段で比較
Aセット $1050 \div 2 = 525$
Bセット $1470 \div 3 = 490$

言葉、絵や図、式が相互に関連し合った授業づくり

令和4年度全国学力・学習状況調査 課題がみられた問題 小学校算数

問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)	
				高知県	全国正答率との差
選択	2 (3)	果汁に含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ。	示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している。	23.7	+2.3

< 分析・考察 >

比例の関係を表す言葉と意味を取り違えている。飲み物の量は1/2になっても、飲み物に含まれている果汁の割合は変わらないことを十分にイメージできていない。日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解できるようにすることが大切であるが、そのような実感を伴った指導ができていないことが考えられる。

(3) リンゴの果汁が20%含まれている飲み物が500 mLあります。この飲み物を2人で等しく分けると、1人分は250 mLになります。

250 mLの飲み物にふくまれている果汁の割合について、次のようにまとめます。

250 mLは、500 mLの $\frac{1}{2}$ の量です。
このとき、

上の②にあてはまる文を、下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

1 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。
2 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は2倍になります。
3 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

授業改善のポイント

実感を伴った理解へつなげる指導を重視していく。

< 指導例 >

「二つの数量の関係と別の二つの数量との関係が同じ割合であることは、問題にしている二つの数量について、比例の関係が成り立つことが前提となっている」ことを意識させたい。割合の指導では、図で表した関係を式にしたり、式に表した関係を図に表したり、図や式の意味を言葉で説明したりすることが大切である。その中で、例えば、テープ図や数直線などの図とつなげた指導ができる図を取り扱ったり、「同じ割合」をイメージしやすい図を取り扱ったりすることで、実感を伴った理解へつなげるために、2量の関係性をイメージ豊かに捉えていける活動を取り入れていく。

付けたい力

図や式などを用いて、二つの数量の関係をイメージ豊かに捉えることができる。

◆二つの数量の関係性を豊かに捉えていけるような指導

シュートのうまさ比べよう。

10回中6回入った!

20回中12回入った!

Aさん ○○○○○○●●●●●

Bさん ●●●●●●●●●●●●●●●●

二つの数量の関係と別の二つの数量との関係が同じ割合、あるいは同じ比であることは、問題にしている二つの数量について、比例の関係が成り立つことが前提となっている。
小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編 P65

シュートのうまさ

10回中6回入る
20回中12回入る
30回中18回入る
...

図で表した関係を式にしたり、式に表した関係を図に表したり、図や式の意味を言葉で説明したりすることが大切

テープ図や数直線などの図とつなげた指導ができる並べ方

10回中6回 $6 \div 10 = 0.6$ ○○○○○○●●●●●

20回中12回 $12 \div 20 = 0.6$ ○○○○○○●●●●●

「同じシュートのうまさ」をイメージしやすい並べ方

10回中6回 $6 \div 10 = 0.6$ ○○○○○○●●●●●

20回中12回 $12 \div 20 = 0.6$ ○○○○○○●●●●●

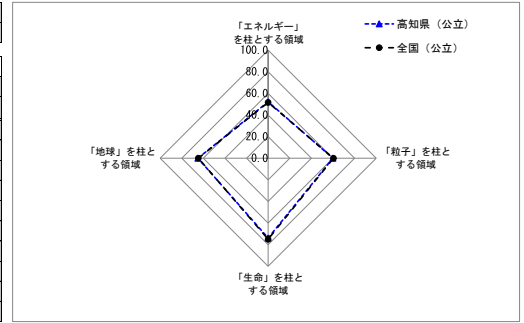
・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	高知県（公立） 184	全国（公立） 18,601	対象児童数	高知県（公立） 4,780	全国（公立） 965,761
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			高知県（公立）	全国（公立）	
全体			17	63.0	63.3
学習指導 要領の 区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	52.2	51.6
		「粒子」を柱とする領域	5	59.9	60.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	5	73.9	75.0
		「地球」を柱とする領域	5	65.0	64.6
評価の観点	知識・技能	6	62.0	62.5	
	思考・判断・表現	11	63.5	63.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	11	65.9	66.8	
	短答式	3	66.1	66.2	
	記述式	3	49.3	47.3	

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の区分・領域				評価の観点	問題形式	正答率(%)			無解答率(%)	
			A区分		B区分				高知県（公立）	全国（公立）	全国正答率との差	高知県（公立）	全国（公立）
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域							
1 (1)	見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものかを選ぶ	問題を解決するために必要な観察の視点に基づき、問題を解決するための道筋を構想し、自分の考えをもつことができる			3B(1)ア(イ)※	○	○	92.1	92.9	-0.8	0.1	0.2	
1 (2)	自分の観察の記録と新たに追加された他者の観察の記録を基に、問題に対するまとめを見直して書く	自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる			3B(1)ア(イ)※	○	○	67.9	67.5	0.4	3.9	5.0	
1 (3)	昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ	昆虫の体のつくりを理解している			3B(1)ア(イ)※	○	○	72.6	73.1	-0.5	0.1	0.3	
1 (4)	資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるのかを選ぶ	提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる			3B(1)ア(イ)※	○	○	73.4	76.1	-2.7	0.3	0.7	
1 (5)	育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見いだして選ぶ	観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる			3B(1)ア(イ)※	○	○	63.3	65.5	-2.2	1.0	1.4	
2 (1)	一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く	メスシリンダーという器具を理解している			5A(1)ア(ウ)※	○	○	66.4	67.8	-1.4	6.0	9.8	
2 (2)	水50mlをはかり取る際に、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ	メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている			5A(1)ア(ウ)※	○	○	70.8	70.0	0.8	0.5	0.6	
2 (3)	水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対するまとめを選ぶ	自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる			4A(2)ア(ウ)※ 5A(1)ア(ウ)※	○	○	60.4	62.8	-2.4	0.5	1.0	
2 (4)	凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く	自然の事象・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる			4A(2)ア(ウ)※ 5A(1)ア(ウ)※	○	○	38.8	39.3	-0.5	6.3	8.7	
3 (1)	光の性質を基に、鏡を操作して、指定した方向に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ	日光は直進することを理解している			3A(3)ア(ア)※	○	○	27.4	27.8	-0.4	0.2	0.6	
3 (2)	実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ	問題に対するまとめを導き出すことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している			3A(3)ア(イ)※	○	○	71.6	74.4	-2.8	0.8	1.3	
3 (3)	鏡でね返した日光の位置が変化していることを基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く	自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができる			3A(3)ア(イ)※	○	○	68.6	68.9	-0.3	3.3	5.1	
3 (4)	問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く	実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる			3A(3)ア(イ)※	○	○	41.0	35.1	5.9	7.8	11.2	
4 (1)	冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ	観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる			4B(4)ア(ア)※	○	○	81.3	82.3	-1.0	0.7	1.0	
4 (2)	夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見直して選ぶ	予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するための道筋を構想し、自分の考えをもつことができる			4B(4)ア(ア)※	○	○	66.1	64.5	1.6	0.9	1.3	
4 (3)	結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものかを選ぶ	観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる			4B(4)ア(ア)※	○	○	45.6	45.5	0.1	4.5	6.5	
4 (4)	鉄棒に付着していた水滴と水の粒は、何が変化したものかを書く	水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している			4A(2)ア(ウ)※ 4B(4)ア(イ)※	○	○	63.4	62.0	1.4	4.0	6.2	

※本設問においては、思考力、判断力、表現力等をみるために用いる知識及び技能を示している。

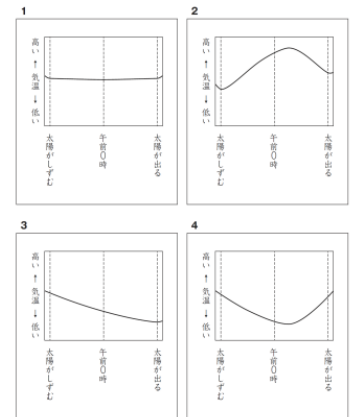
令和4年度全国学力・学習状況調査 成果がみられた問題 小学校理科

問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)	
				高知県	全国正答率との差
選択	4 (2)	夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を見通して選ぶ。	予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる。	66.1	+1.6

< 分析・考察 >

夜の気温の変化について、他者の予想が確かめられた場合に得られる結果を見通す問題において、全国平均を上回り、改善傾向がみられる。〈H30年度全国学力・学習状況調査大問2(2)県正答率53.0(全国比-2.0)〉このことから、授業において、実験を計画した後、この実験を行った場合にどのような結果が得られるかを考えさせる授業が増えてきていることがうかがえる。

(2) しろくさんの下線部の考えが正しいければ、冬の夜の気温は、どのように変化すると考えられますか。下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。



授業改善のポイント

問題を解決するまでの道筋を構想できるようにする指導の充実

< 指導例 >

解決の方法を発想できるようにするためには、結果を見通すことができるようにすることが重要である。

例えば、冬の夜の気温変化についての問題を設定し、児童それぞれに仮説を立て、観測を行った場合の結果がどうなるか見通しをもたせる。また、自分の考えとは異なる他者の仮説に対しても、同じように、それが正しいればどのような結果になるのか見通しをもたせるような活動を取り入れる。

付けたい力

見通しをもって、解決の方法を発想する力～観察・実験の結果を見通す～

問題解決の過程



【問題】 冬の夜の気温は、どのように変化するか

予想

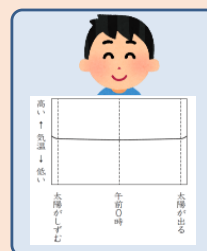
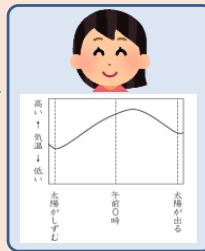
晴れている日の夜の気温は、午前0時過ぎ頃に最も低くなると思う。晴れた夜の方が、気温の変化の仕方は大きいだろうな。 Aさん

夜は、太陽が出ていないから、晴れていても、くもっていても、気温の変化はないと思う。 Bさん

結果の見通し

ポイント (観察・実験を始める前に) 自分の予想が正しかったら、観測の結果はどうなりますか？

ポイント 自分の予想が正しかった場合だけではなく、他の人の予想とその見通しについても考えてみましょう。



Bさんの予想だったら、結果もBさんの見通しの通りになると思う。

Aさんの予想だったら、結果はそんなグラフにならないんじゃないかなあ。

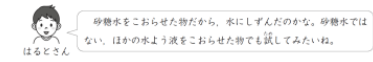
令和4年度全国学力・学習状況調査 課題がみられた問題 小学校理科

問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)	
				高知県	全国正答率との差
記述	2 (4)	凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く。	自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。	38.8	-0.5

< 分析・考察 >

自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、問題を見いだすことが十分にできていない。複数の自然の事物・現象に働きかけて得た事実を比較しながら、主に差異点や共通点を基に、児童個人が問題を見いだすことが大切であるが、教師からの問題の提示が多いのではないかと考えられる。

(4) 砂糖水をおこなせた物は、紅茶に入れてみるとみました。



はるどさんは、試してみたいことをもとに、【問題】を見つけた。はるどさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

授業改善のポイント

自然事象に対する気付きや問題の設定の過程の指導の充実

< 指導例 >

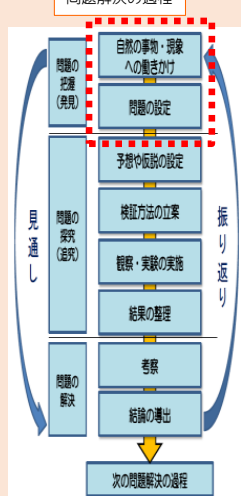
問題を見いだすためには、複数の自然の事物・現象を比較し、その差異点や共通点を捉えさせることが重要である。

例えば、第3学年の「身の回りの生物」で、昆虫の育ち方を学習する場面では、キャベツに産み付けられているモンシロチョウの卵を観察させる。卵には色が違うものがあること、形や大きさは同じであることなど差異点や共通点を捉え、疑問をもたせる。これらの疑問をそのまま問題とするのではなく、児童が調べたいことに着目し、検証可能な問題にしていく活動を取り入れる。

付けたい力

問題を見いだす力～自然の事物・現象に働きかけ、問題を設定する～

問題解決の過程



主に差異点や共通点を基に、疑問に思ったことを出し合う

育てているキャベツはどうなったでしょうか？
見に行ってみましょう！！

モンシロチョウが卵を産み付けていますよ。

※授業者は、あらかじめキャベツを観察し、色の違う卵が産み付けられていることを確認しておく。

葉っぱに、小さくて丸いものがついている！

こっちにもついている。これがモンシロチョウの卵なんだね。同じ形、同じ大きさだ。

共通点

あれ、この葉っぱについている卵は黄色だ。さっき見たのは白だったのに…。

差異点

よく見ると、少しずつ色が違っていているよ。

差異点

卵の大きさや色を比べることができていますね。

「分かった」ではなく「比べることができた」ことに対する声掛けが大切

ポイント

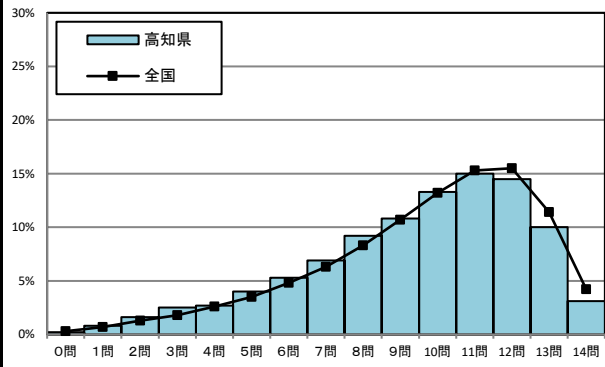
【問題】 卵の色の違いは、何によるものだろうか

各教科に関する学力の状況

〔中学校国語〕

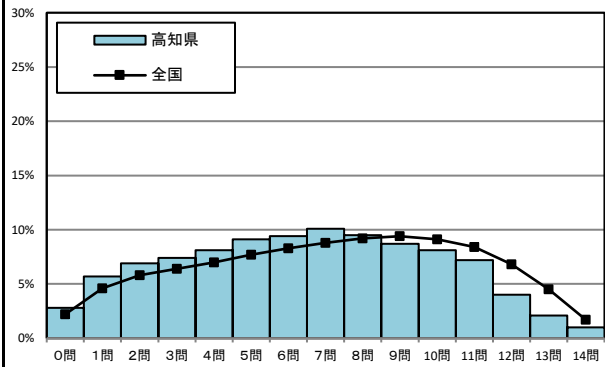
正答数分布の状況

国語	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	3,921	9.4/14	67.1%	10.0	3.0
全国	891,820	9.7/14	69.0%	10.0	2.9

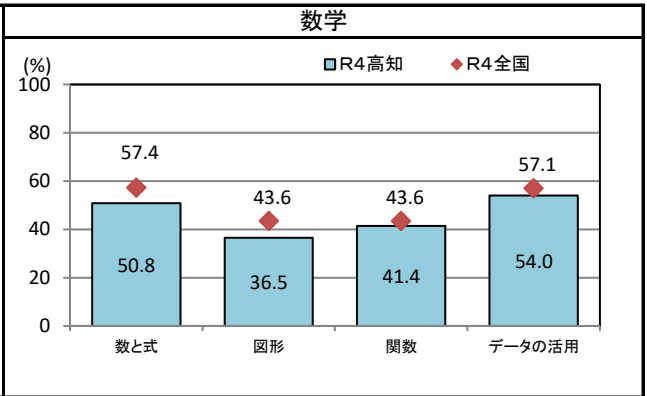
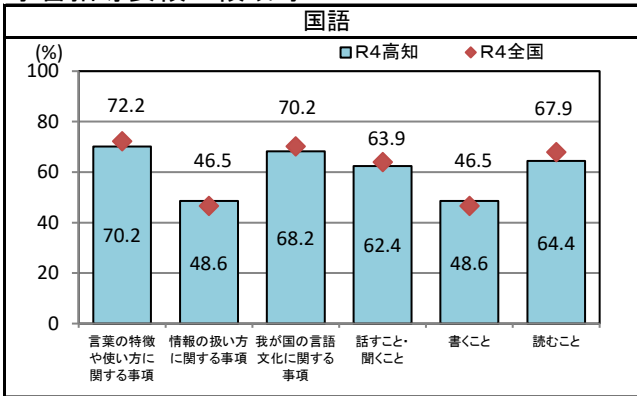


〔中学校数学〕

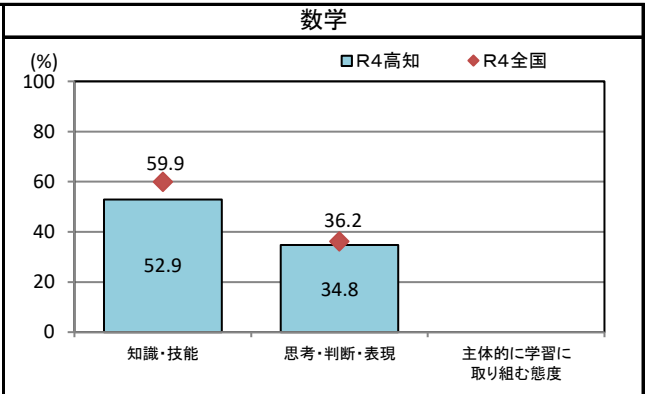
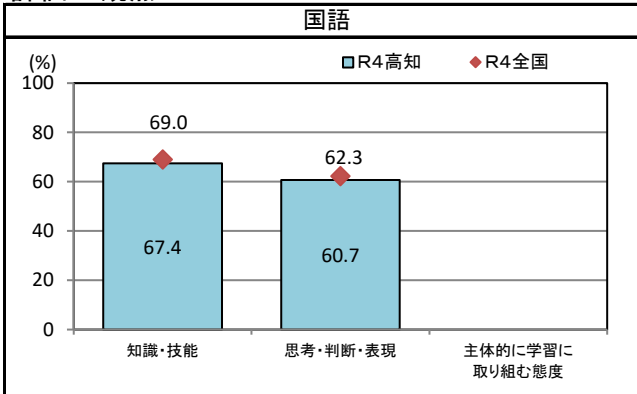
数学	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	3,919	6.5/14	46.4%	7.0	3.4
全国	891,913	7.2/14	51.4%	7.0	3.6



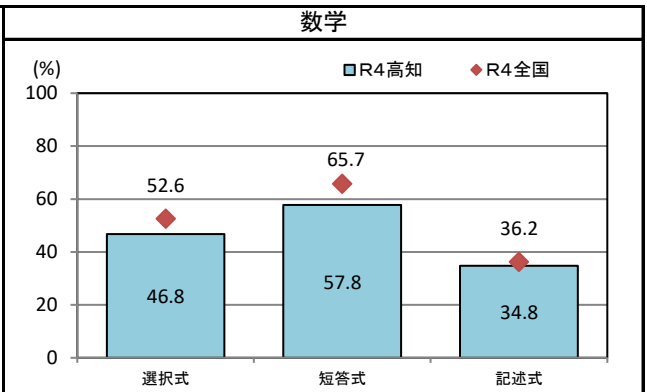
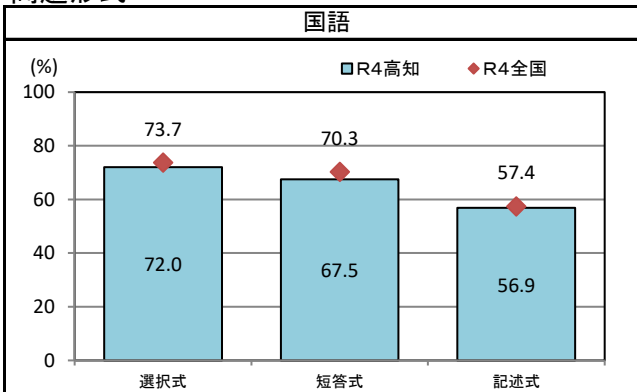
学習指導要領の領域等



評価の観点



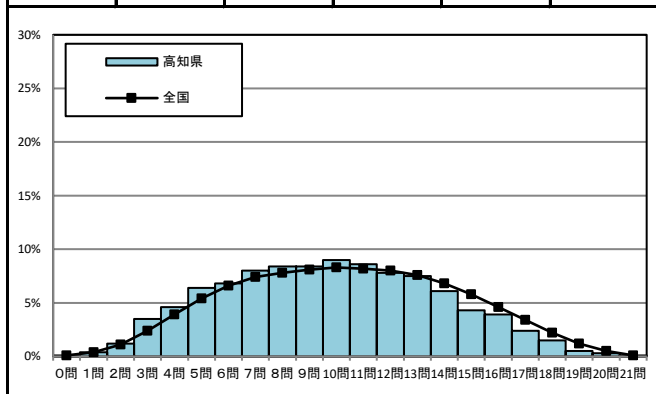
問題形式



各教科に関する学力の状況

〔中学校理科〕 正答数分布の状況

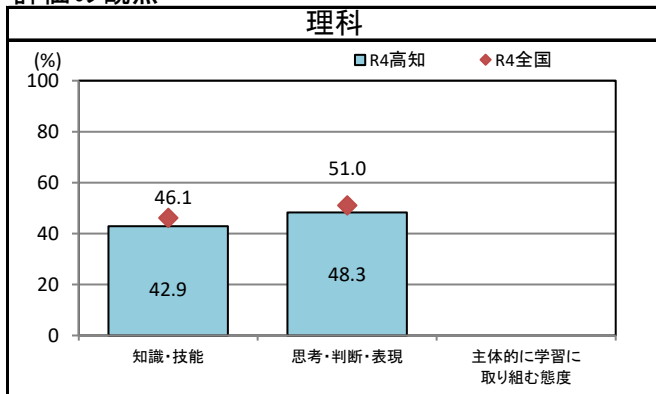
理科	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	3,925	9.8/21	46.5%	10.0	4.0
全国	892,585	10.4/21	49.3%	10.0	4.1



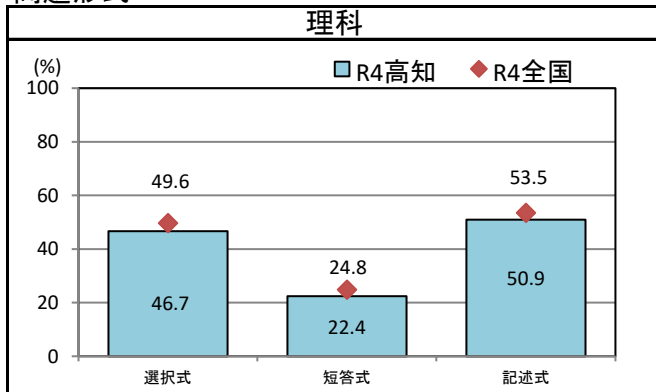
学習指導要領の領域



評価の観点



問題形式



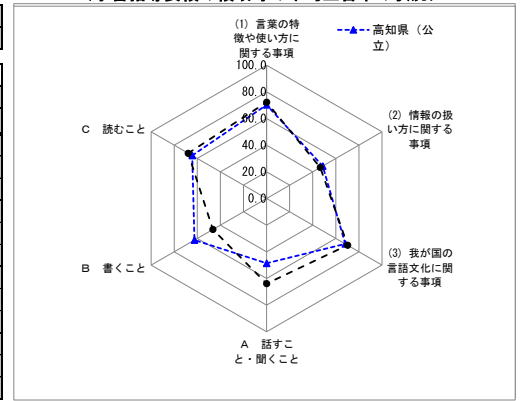
・以下の集計値/グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数		高知県 (公立)	全国 (公立)	対象生徒数		高知県 (公立)	全国 (公立)
		102	9,340			3,921	891,820

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			高知県 (公立)	全国 (公立)	
全体					
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	6	70.2	72.2
		(2) 情報の扱いに関する事項	1	48.6	46.5
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	68.2	70.2
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	62.4	63.9
		B 書くこと	1	48.6	46.5
		C 読むこと	2	64.4	67.9
評価の観点	知識・技能	10	67.4	69.0	
	思考・判断・表現	6	60.7	62.3	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	72.0	73.7	
	短答式	5	67.5	70.3	
	記述式	3	56.9	57.4	

＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞



※「学習指導要領の内容」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの区分について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点	問題形式	正答率 (%)			無解答率 (%)	
			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等				高知県 (公立)	全国 (公立)	全国正答率との差 (公立)	高知県 (公立)	全国 (公立)
				(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	(2) 情報の扱いに関する事項							
1一	スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す	聞き手の興味・関心などを考慮して表現を工夫する。			1ウ			73.5	74.7	-1.2	4.0	3.8
1二	話の進め方のよさを具体的に説明したものととして適切なものを選択する	論理の展開などに注意して聞く			2エ			63.2	65.1	-1.9	0.1	0.1
1三	スピーチのどの部分をどのように工夫して話すと、そのように話す意図を書く	自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す	1ア		1ウ			50.3	51.8	-1.5	12.5	16.2
2一	意見文の下書きの一部について、文末の表現を直す意図として適切なものを選択する	助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う			2オ			82.2	82.3	-0.1	0.2	0.2
2二①	漢字を書く (㊟ぞく)	文脈に即して漢字を正しく書く			2ウ			79.6	82.1	-2.5	7.3	8.8
2二②	漢字を書く (よろこんで)				2ウ			78.8	80.5	-1.7	2.5	3.3
2三	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く			1イ			48.6	46.5	2.1	7.9	9.0
3一	「隅炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する	表現の技法について理解する			1オ			48.2	52.5	-4.3	0.3	0.7
3二	「途方に暮れた」の意味として適切なものを選択する	事象や行為、心情を表す語句について理解する			1ウ			81.8	84.0	-2.2	0.2	0.3
3三	話の展開に沿って「おれ」の行動や心情を並べ替える	場面の展開や、登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える			1イ			57.1	62.0	-4.9	0.7	1.0
3四	「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く	場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する			1ウ			71.6	73.8	-2.2	11.0	13.3
4一	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものととして適切なものを選択する	行書の特徴を理解する			1エ(4)			38.0	39.4	-1.4	0.7	0.9
4二	最初に書いた文字の漢字のバランスについて説明したものととして適切なものを選択する	漢字の行書の読みやすい書き方について理解する			2ウ(7)			88.1	90.1	-2.0	0.7	1.0
4三	書き直した文字の「と」の書き方について説明したものととして適切なものを選択する	漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する			2ウ(7)			78.4	81.1	-2.7	0.8	1.1

令和4年度全国学力・学習状況調査 成果がみられた問題 中学校国語

問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)	
				高知県	全国正答率との差
短答	1ー	スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す。	聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する。	73.5	-1.2

< 分析・考察 >

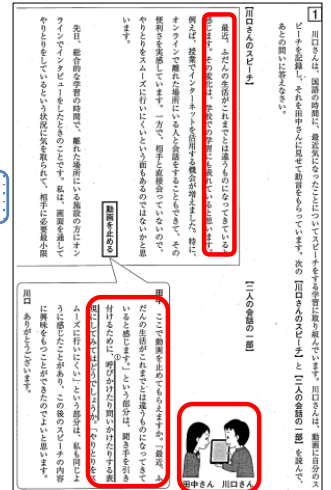
友達（聞き手）からの具体的な助言を生かして、スピーチの一部を、実際に話すように問いかけたり呼びかけたりする表現に直すことができる。「授業づくり講座」において「話すこと・聞くこと」の授業提案等の発信をすることによって、目的や相手に応じて話すことの授業改善が進み、相手の反応を意識した話し方ができるようになってきたと考えられる。

授業改善のポイント

自分の考えが分かりやすく伝わるように、表現を試行錯誤させる。

< 指導例 >

何のために、誰を対象に、どのような状況で話すのかを具体的に考え、話し方を工夫することができる言語活動を位置付けた単元を設定する。そして、複数のスピーチを比較したり、ICT機器を活用してスピーチの様子を動画で記録したりして、話し方を振り返ったり、工夫したことの効果を確認したりするなどの学習活動を取り入れる。その際、各学年段階の指導事項を踏まえて、なぜ、そのように表現を工夫したのか、その意図を明確にして工夫したことの効果を検討させる。また、聞き手の生徒がどのように聞くとよいかについても、明らかにする。



付けたい力

聞き手を意識し、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。

< 学習場面の例 >

例1 複数のスピーチを比較し、工夫と効果を捉える。



スピーチの導入を比べると、Aさんは「最近、～と感じませんか。」と問いかけをして、聞き手が興味をもってくれるように工夫しているね。

確かに、問いかけられると、自分はどうなのか考えさせられるから、後のスピーチの内容と自分の考えを比べながら書くことができるね。



速度や音量はどうか？

例2 伝えたいことが伝わっているか確かめ、改善案を考える。



「この言葉を聞いてはっとしました。」という部分を驚いたように話していたところが一番印象に残ったよ。

一番伝えたかったのは、別のところだったんだけどな～



〇〇さんの意図は何ですか？
どのように工夫していましたか？
〇〇さんの意図を踏まえて、改善案を考えましょう。

例3 一人一台端末を活用し、聞き手の反応を確認したり、聞き手の立場になって振り返ったりする。



「ごみを拾う機会があるとよいと思います。」と考えを述べた時に、首をかしげている人がいるな。

そうか、「機械」と思ったんだな。違う言葉はなかったかな？それとも何か補足して説明できなかったかな？



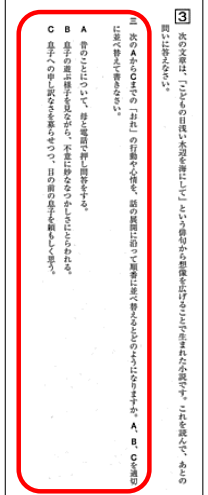
なぜそのように表現したのか、その意図を明確にして効果を確認めたり、何をどのように改善すると、伝えたいことが伝わるようになるのかについて検討させたりすることが大切です。

令和4年度全国学力・学習状況調査 課題がみられた問題 中学校国語

問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)	
				高知県	全国正答率との差
短答	3三	話の展開に沿って「おれ」の行動や心情を並べ替える。	場面の展開や、登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える。	57.1	-4.9

< 分析・考察 >

描写を基に、場面の展開を捉えることや、登場人物の心情がどのように変化しているのかを把握することが十分にできていない。文学的な文章を読むためには、言葉を手がかりにしながら文脈をたどり、観点を定めて読むことや、場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈することが大切であるが、読む目的を持たせず、文章を場面等に切り分けて、精読する授業が行われていることが考えられる。



授業改善のポイント 読む目的(問い)を明確にし、複数の描写を基に内容を捉えさせる。

< 指導例 >

文学的な文章を読み味わうために、個々の場面や描写から直接わかることを把握するだけでなく、複数の描写を基に内容を捉えさせるようにする。例えば、物語の結末などについて、「主人公は最後の場面で何に納得したのだろう」といった問いを持たせ、文章を読んで考えたことなどを伝え合う活動を取り入れる。その際、心情を表す言葉を取り上げてその変化をたどったり、問いに対する自分の考えを、複数の場面と場面、場面と描写などを具体的に取り上げ、理由を述べながら伝えるように指導する。

付けたい力

場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。

①通読し、読む目的(問い)を持つ。



結末に、「なるほど」とあるけど、主人公は何に納得したのさ？

それぞれの考えを伝え合う学習をしましょう。
何に着目して読めばよいでしょうか？



時間(場面)の流れに沿って、心情に関する描写を取り上げながら、変化をみていくとよさそうだな。



②話の展開に沿って、文章全体を読み、主人公の心情がわかる描写を取り上げていく。【構造と内容の把握】

③「結末」に至るまでの話の展開を説明するうえで、特に必要な描写を選ぶ。選んだ場面と場面、描写と描写などを結び付けて、「結末」を説明する。【精査・解釈】

最後の一文に着目して「結末」を確認し、必要な場面や描写を選び、つながりを考えてみましょう。



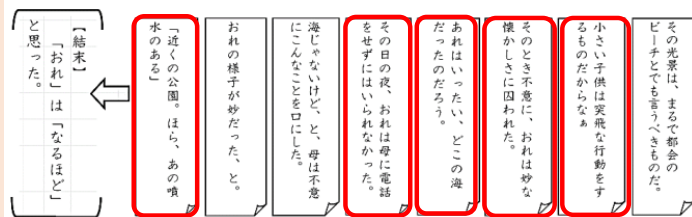
「水辺に海を見いだしたのはどうやら息子だけではないから、息子の行動の描写と、「おれ」の記憶についての描写が必要だね。



それが分かったのは、「母」との電話のやりとりがあったからなので、電話の場面も必要だね。

じゃあ、この5枚の付箋の描写をつなげて考えてみよう。

【グループで整理した付箋の例】



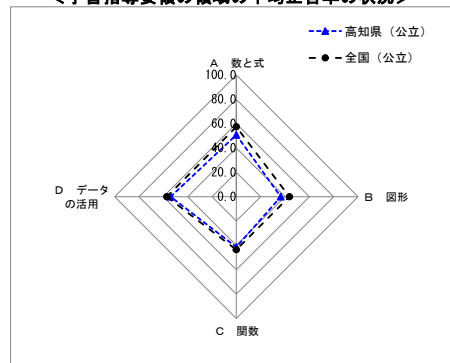
一人一台端末や、ホワイトボードの機能を活用して行うことが考えられます。

以下の集計値/グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	高知県(公立) 102	全国(公立) 9,339	対象生徒数	高知県(公立) 3,919	全国(公立) 891,913
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			高知県(公立)	全国(公立)	
全体			14	46.4	51.4
学習指導要領の領域	A 数と式	5	50.8	57.4	
	B 図形	3	36.5	43.6	
	C 関数	3	41.4	43.6	
	D データの活用	3	54.0	57.1	
評価の観点	知識・技能	9	52.9	59.9	
	思考・判断・表現	5	34.8	36.2	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	4	46.8	52.6	
	短答式	5	57.8	65.7	
	記述式	5	34.8	36.2	

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点	問題形式	正答率(%)			無解答率(%)	
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用			高知県(公立)	全国(公立)	全国正答率との差(公立)	高知県(公立)	全国(公立)
1	42を素因数分解する	自然数を素数の積で表すことができる	1 (1) ア、イ				○	○	33.9	52.2	-18.3	13.1	11.5
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} 2x + y = 1 \\ y = x + 4 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2 (2) ア (ウ)				○	○	69.7	74.5	-4.8	5.4	6.1
3	ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ	反例の意味を理解している		2 (2) ア (イ)			○	○	36.3	44.9	-8.6	0.2	0.4
4	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	一次関数の変化の割合の意味を理解している		2 (1) ア (ア)			○	○	30.9	37.9	-7.0	0.2	0.4
5	容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ	多数の観察や多数回の思考によって得られる確率の意味を理解している			1 (2) ア (ア)		○	○	80.0	83.3	-3.3	0.2	0.3
6(1)	同じ偶数の和である $2n + 2n = 4n$ について、 n が9のときどのような計算を表しているかを書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	2 (1) ア (イ)				○	○	70.0	73.8	-3.8	5.1	6.0
6(2)	差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	2 (1) イ (イ)			○		○	45.2	48.7	-3.5	17.0	20.0
6(3)	ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる	2 (1) イ (イ)			○		○	35.3	37.6	-2.3	20.8	26.2
7(1)	コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			1 (1) イ (ア)		○	○	42.3	44.0	-1.7	1.2	1.4
7(2)	箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について、正しく述べたものを選ぶ	箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる			2 (1) ア (ア)		○	○	39.8	44.1	-4.3	0.5	0.7
8(1)	与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる			1 (1) ア (イ)		○	○	50.2	54.6	-4.4	6.0	7.2
8(2)	目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			1 (1) イ (イ)		○	○	43.2	38.4	4.8	16.9	24.4
9(1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している			2 (2) ア (ア)		○	○	65.3	73.2	-7.9	7.6	7.5
9(2)	$\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する	筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる			2 (2) イ (イ)		○	○	7.8	12.5	-4.7	29.7	38.5

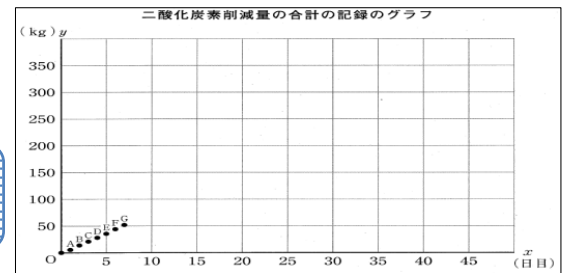
令和4年度全国学力・学習状況調査 成果がみられた問題 中学校数学

問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)	
				高知県	全国正答率との差
記述	8 (2)	目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する。	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。	43.2	+4.8

< 分析・考察 >

問題解決の方法を問う問題に改善傾向がみられる。R3年度全国学力・学習状況調査の大問7(2)県正答率29.3(全国比+1.6)からも向上している。問題解決の方法を「用いるもの」とその「用い方」を明確にして、説明できるようにする指導を重視した授業改善が進んだ成果と考えられる。

(2) 愛理さんは、7日目までの取り組みの結果から、目標を達成できるのがおよそ何日目になるかを予測することにしました。そこで、下の二酸化炭素削減量の合計の記録のグラフにおいて、原点Oから点Gまでの点が一直線上にあるとし、このまま同じように取り組みを続け、二酸化炭素削減量の合計が一定の割合で増加すると仮定して考えることにしました。



このとき、目標の300kg削減を達成できるのがおよそ何日目になるかを求める方法を説明しなさい。ただし、実際に何日目になるかを求める必要はありません。

授業改善のポイント

関数の単元を通して、問題解決の方法を見通したり、振り返ったりする活動を行う。

< 指導例 >

関数の考えを使うと、日常生活や社会の事象における問題を数学の問題として捉えて、解決できるといった数学的活動を取り入れていく。

付けたい力

問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できる。

二酸化炭素削減量の合計300kgを達成できるのは、およそ何日目になるか。

日常生活や社会の事象における問題の解決に、関数を活用して考察する場を設定する。

問題解決の見通しをもつ場面



どのようにしたら、問題解決できますか？

グラフがほぼ一直線上に並んでいることを基にして比例するとみなすことで、式が求められます。



「用いるもの」に着目する。



グラフが直線になると考えれば、データのない場所でも、先のことが予測できます。

問題解決の方法を説明する活動例：グラフを用いて解決する場合

問題解決の過程を振り返る場面



解決した方法について、振り返ってみましょう。的確に説明することができていますか。



「グラフを使って、求める」だけでは、説明として不十分だとわかりました。



原点Oを通る直線とみなしたグラフ(用いるもの)と「y=300のときのx座標を読む」(用い方)の両方が、説明には必要だと気づきました。

振り返りでは、不十分な表現を吟味し、生徒が自覚して、「用いるもの」とその「用い方」の両方を記述できているか、より洗練した表現へ見直すことができるようにする。

令和4年度全国学力・学習状況調査 課題がみられた問題 中学校数学

問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)	
				高知県	全国正答率との差
短答	1	42を素因数分解する。	自然数を素数の積で表すことができる。	33.9	-18.3

< 分析・考察 >

学習指導要領の改訂で中学校1年へ移行された内容「自然数を素数の積として表すこと」について、移行のねらいにそった指導改善が不十分であることが考えられる。R3高知県学力定着状況調査中1大問3「素因数分解について理解していることをねらいとした問題」において正答率53.3であったことから、身に付けておかなければならない知識・技能が十分定着していない生徒が一定数おり、課題改善ができていない状況が考えられる。

授業改善のポイント

整数の性質についての理解を深める指導を重視していく。

$$42 = 2 \times 3 \times 7$$

< 指導例 >

整数を様々な視点から捉えることができるようにするために、自然数を素数の積として表していくことを通して、整数に対する見方を広げ、理解を深める指導を取り入れていく。

第1学年：自然数を素数の積として表すこと < [内容の取り扱い](1) >

(※移行前第3学年：自然数を素因数に分解すること)

自然数を素数の積として表すことによって、小学校算数科で学んできた整数の性質についての理解を深め、中学校での学習につなげることができるからである。中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 数学編p67

付けたい力

素因数分解することを通して、整数の性質についての理解を深めることができる。

◆自然数を素数の積として表していくことを通して、整数に対する見方を広げ、理解を深める指導

◎小学校算数科で学んだ約数や倍数の性質について捉え直す

公約数をそれぞれの約数から見付けた!

小学校 8の約数{1, 2, 4, 8}
12の約数{1, 2, 3, 4, 6, 12}
8と12の公約数{1, 2, 4}

中学校1年 自然数を素数の積として表すことで
 $8 = 2^3$
 $12 = 2^2 \times 3$
8と12の共通な因数{1, 2, 2^2 }

素因数分解することで、自然数がどのような数で構成されているか仕組みが分かり、数の約数や倍数を見付けることができる!

◎数の性質を使い表現する場面で素因数分解につながっていることを意識する

中学校2年 「文字を用いた式」の説明
2つの奇数の和は4の倍数である
 $(2n+1) + (2n+3) = 4n+4$
 $= 4(n+1)$

素因数分解と同じように、式も因数の積 $4 \times (\text{整数})$ と表すことで、どんな数の倍数なのかを見出すことができる!

中学校3年 素数の積として表すことで
 $\sqrt{50} = \sqrt{5^2 \times 2}$
 $= 5\sqrt{2}$

数の平方根を表すことができる!

整数に対する見方を広げる

令和4年度全国学力・学習状況調査 課題がみられた問題 中学校数学

問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)	
				高知県	全国正答率との差
選択	4	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ。	一次関数の変化の割合の意味を理解している。	30.9	-7.0

< 分析・考察 >

一次関数の変化の割合の意味を十分に理解できていない。変化の割合は、伴って変わる二つの数量 x 、 y の変化の様子を読み取り、求める必要がある。しかし、誤答イ (41.8%) を選択しており、表の隣り合う二つの y の値に着目し、その差が2であることから、変化の割合は2と判断している。このことから、一次関数の指導の中で、表、式、グラフの関連を図ったり、変化の仕方を観察させたりする指導が不足していると考えられる。

4 下のアからエまでの表は、 y が x の一次関数である関係を表しています。この中から、変化の割合が2であるものを1つ選びなさい。

ア

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-11	-7	-3	1	5	9	13	...

イ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-5	-3	-1	1	3	5	7	...

ウ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-2	-1	0	1	2	3	4	...

エ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-7	-4	-1	2	5	8	11	...

授業改善のポイント 変化や対応の様子に着目して、変化の割合の意味を捉える活動を重視していく。

< 指導例 >

具体的な事象の中から伴って変わる二つの数量を取り出して、その変化や対応の様子に着目して関数関係を見だし、その関数の特徴を調べるために、変化の割合を求める活動を位置付ける。その活動の中で、表から読み取った数値について、その意味を考えたり、 x の増加量が1のときの y の増加量が変化の割合であることに立ち返って、理解を図る活動を取り入れていく。

付けたい力

一次関数の変化の割合の意味を理解し、変化の割合を求めることができる。

◆ 伴って変わる二つの数量 x 、 y の変化の様子を表から読み取り、変化の割合を求める指導

変化の割合について調べる活動

表から変化や対応の様子を読み取り、変化の割合の意味を考える

二酸化炭素削減量の合計の記録 (大問8)

x (日目)	0	1	2	3	4
y (kg)	0	7.2	15.2	22.8	29.7

x の増加量が1のときの y の増加量が7.2であることは、1日につき、二酸化炭素削減量が7.2kgであるという意味です。

一次関数の表を調べよう

x	-2	0	2
y	-1	1	3

なぜ、「変化の割合は2」と考えたのですか?

「変化の割合は2かな?」

y の増加量が2だから変化の割合が2になるのかな?

x の増加量が1のときの y の増加量が変化の割合ということだったな。

式「 $y = x + 1$ 」

「変化の割合は1である」

「変化の割合は1である」

式「 $y = x + 1$ 」

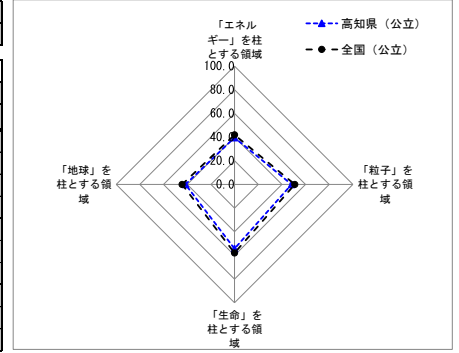
y の増加量で求められることや、 x の増加量が1のときの x の増加量 y の増加量であることを捉えることができるようにする。

以下の集計値/グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	高知県(公立) 101	全国(公立) 9,337	対象生徒数	高知県(公立) 3,925	全国(公立) 892,585
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			高知県(公立)	全国(公立)	
全体		21	46.5	49.3	
学習指導要領の分野・領域	第1分野	「エネルギー」を柱とする領域	6	39.6	41.9
		「粒子」を柱とする領域	5	48.2	50.9
	第2分野	「生命」を柱とする領域	5	54.3	57.9
		「地球」を柱とする領域	6	41.5	44.3
評価の観点	知識・技能	7	42.9	46.1	
	思考・判断・表現	14	48.3	51.0	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	15	46.7	49.6	
	短答式	1	22.4	24.8	
	記述式	5	50.9	53.5	

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の分野・領域				評価の観点	問題形式	正答率(%)			無解答率(%)	
			第1分野		第2分野				高知県(公立)	全国(公立)	全国正答率との差(公立)	高知県(公立)	全国(公立)
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域							
1(1)	日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する	日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	(3) (7)				○	○	44.6	44.2	0.4	0.1	0.1
1(2)	タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合せを選択する	モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる	(3) (7)				○	○	74.4	78.5	-4.1	0.1	0.1
2(1)	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際、適切な長さの変化を選択する	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるか問うことで、気圧に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる		(4) (7)			○	○	49.9	54.2	-4.3	0.2	0.2
2(2)	気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する	継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる		(4) (4)			○	○	41.8	40.8	1.0	0.2	0.3
2(3)	上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する	飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる		(4) (4)			○	○	25.6	28.5	-2.9	0.3	0.3
3(1)	分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる	(4) (4)				○		77.6	80.1	-2.5	0.1	0.1
3(2)	水素を燃料として使うしくみの例の水の質量の変化について、適切なものを選択する	水を電気分解して発生させた水素を燃料として使う仕組みを探究する学習場面において、粒子の保存性の視点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈できるかどうかをみる	(4) (4)				○		58.3	60.2	-1.9	0.3	0.3
3(3)	水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとを指摘する	化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもととして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる	(3) (7)	(4) (4)			○	○	22.4	24.8	-2.4	4.0	4.3
4(1)	ダイオウグモシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明する	節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる		(1) (4)				○	73.1	74.5	-1.4	4.9	5.5
4(2)	脊椎動物には骨格のつくり共通点があることから、カラスの関節Aに対応するヒトとカエルのあしの関節を選択する	複数の脊椎動物の外部形態の考察を行う場面において、あしの骨格について共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかをみる		(1) (4)			○	○	62.0	65.6	-3.6	0.1	0.2
5(1)	おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する	力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる	(1) (4)				○	○	10.9	15.3	-4.4	0.1	0.2
5(2)	「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する	課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかをみる	(1) (4)				○	○	40.2	45.0	-4.8	0.3	0.4
5(3)	考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する	考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる	(1) (4)				○	○	44.9	43.3	1.6	22.9	29.4
6(1)	玄武岩の露頭で化石の観察が可能か判断し、その理由を選択する	玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことで、岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる		(2) (7)			○	○	45.0	48.0	-3.0	0.2	0.3
6(2)	陸上の日地点で古生代のサンゴの化石が観察されることについて、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し、水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘する	過去の大地の変動について、垂直方向の移動だけで推論した他者の考察を、水平方向の移動も踏まえて、検討して改善できるかどうかをみる		(2) (4)			○	○	56.1	60.3	-4.2	0.4	0.6
6(3)	東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択する	地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかをみる		(2) (4)			○	○	30.9	34.2	-3.3	0.6	0.7
7(1)	液体が気体へ状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する	液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な現象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	(2) (9)				○	○	32.0	35.9	-3.9	0.4	0.4
7(2)	吸湿発熱繊維に水蒸気を多く含む空気を通した一つの実験だけで行った考察について、課題に正対しているかどうかを検討し、必要な実験を指摘する	実験の結果が考察の根拠として十分かどうかを検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみる	(2) (9)				○	○	50.7	53.4	-2.7	0.7	1.0
8(1)	アリの視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する	アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる		(3) (9)			○	○	50.3	55.2	-4.9	10.1	11.6
8(2)	予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する	予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察・実験の操作や条件の不備などの探究の方法について検討し、探究の過程の見直しをもつことができるかどうかをみる		(3) (9)			○	○	50.6	55.1	-4.5	13.2	14.9
8(3)	生物Xが昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確に判断する	未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる		(1) (4)			○	○	35.7	39.2	-3.5	1.2	1.4

令和4年度全国学力・学習状況調査 成果がみられた問題 中学校理科

問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)	
				高知県	全国正答率との差
選択	3 (1)	分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す。	化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる。	77.6	-2.5

< 分析・考察 >

化学変化に関する知識や技能を活用して原子や分子のモデルを基に、化学反応式を表すことに改善傾向がみられる。〈H30年度全国学力・学習状況調査大問4(3)県正答率42.8(全国比-7.2)〉このことから化学変化だけではなく、粒子領域(水溶液や状態変化等)において、現象とモデルとを関連付けて理解させる授業が行われていることがうかがえる。

③ 東京オリンピック・パラリンピックの聖火の燃料に水素が使われたことから、水素の期間について、理科の授業で科学的に探究しました。(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

東京オリンピック・パラリンピックの聖火の写真

授業改善のポイント

化学変化を原子や分子のモデルと関連付けて捉えさせる指導の充実

< 指導例 >

身近な現象を科学的に探究する上で、原子や分子のモデルを基に、身近に見られる化学変化を化学反応式で表すことは大切である。

反復的に化学式や化学反応式を覚えさせるだけではなく、本設問のように、例えば実生活や実社会の中で水素の燃焼が起こっている場面を想定する。その現象をモデルを使って考えさせることによって、関わっている原子や分子の種類や数を可視化できることに気付かせるなど、モデルで表す有用性を実感できるようにする。

水素の燃焼を化学反応式で表す場面

温暖化の原因と考えられている二酸化炭素を消さない燃料として、水素が使われました。

下の分子のモデルで表した図を参考に、水素の燃焼を化学反応式で表しましょう。

(1) 水素の燃焼の化学反応式を、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

ア $4H + 2O \rightarrow 2H_2O$
 イ $H_2 + O_2 \rightarrow H_2O$
 ウ $2H_2 + O_2 \rightarrow 2H_2O$
 エ $H_2 + O \rightarrow H_2O$

付けたい力

化学変化を原子や分子のモデルと関連付けて捉える力

化学反応式を、反復的に覚えさせるだけではなく、身近で起こっている化学変化と関連させる



東京オリンピック・パラリンピックの聖火の燃料には、温暖化に配慮して、水素が使われました。



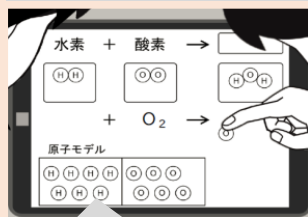
以前、試験管にためた水素に火をつけると、燃焼が起こるという実験をしました。試験管の中で何が起きたのか、原子や分子のモデルを使って考え、化学反応式で表しましょう。なぜ、水素が温暖化に配慮した燃料なのでしょう。

水素が燃焼したということは酸素と結びついたんだから…

化学変化の前後で原子の種類や数を考えながら操作する



水素を○で表そう。それから酸素は◎。ほかに関係している原子はない？燃焼の結果できるのは水だから、 $\text{○} + \text{◎} \rightarrow \text{◎○}$ こんな感じかな。



できた化学反応式から、なぜ水素が温暖化に配慮した燃料なのか説明ができますか？従来の燃料(プロパン:主成分は炭素C)の化学反応式もつくって、比べてみましょう。



水素は水素原子が2個くっついて分子になっているから、◎◎だよ。酸素も同じだね。

模型やタブレットを活用することが考えられる

令和4年度全国学力・学習状況調査 課題がみられた問題 中学校理科

問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)	
				高知県	全国正答率との差
記述	8 (2)	予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する。	予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見通しをもつことができるかどうかをみる。	50.6	-4.5

< 分析・考察 >

予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合について、課題に対する結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件制御などの探究の方法について検討することが十分にできていない。このことから、結果の予想と異なる結果が出る場合を想定した授業があまり行われていないことがうかがえる。

授業改善のポイント

探究の過程の見通しをもつことができるようにする指導の充実

< 指導例 >

問題を見いだして課題を設定し、科学的に探究する上で、課題を解決するまでの探究の過程を見通すことが大切である。

そのためには、課題や仮説を検証するための実験であることを把握させた上で、今行っている過程の先の過程を想定させることで見通しをもたせる。具体的には仮説を設定したときには検証するための実験計画を、計画が立ったならば結果の予想を、さらに予想通りの結果にならなかった場合を想定してその原因を、それぞれ考える活動を取り入れていく。

レポートの書きの一部

【調べたこと】
アリは、腹部の光から「においの物質」を出し、地面に付けながら歩く。

【課題①】
アリは、嗅覚による情報をもとに行列をつくるか。

【実験①】
① アリをつぶさないように2枚の透明な紙で行列を分断する。
② 操作Aと操作Bを行った後のアリの行動を比較する。

【結果の予想】
嗅覚による情報をもとにしていれば、操作Aは行列をつくらず、操作Bは行列をつくるだろう。

予想と異なる結果が出る場合について考える場面

もし、【結果の予想】と異なり、操作Aも操作Bも行列をつくる結果になった場合は、どのように考えればよいですか。

私は、嗅覚による情報をもとにしていないと考えます。

私は、アリの種類を変えて同じ操作で確かめるとよいと考えます。

私は、操作Aで、 B ことができなかったのではないかと考えます。

(2) B に当てはまる適切な行番号を書きなさい。

付けたい力

観察、実験を計画して、探究の過程を見通したり、構想したりする力

【課題】 植物の葉に日光を当てると、植物の周りの二酸化炭素は減っているのだろうか。
【仮説】 植物の葉に日光を当てると、植物の周りの二酸化炭素は減っている。

【立案（仮説を検証するためには）】
同じ大きさの葉がついた植物を2つ用意しそれぞれ袋に入れる。一方には日光を当て、もう一方には当てない。2時間ほど置いた後、袋の中の気体を、石灰水に通す。

【結果の見通し】

	A. 日光に当てる	B. 日光に当てない
石灰水	変化なし	白くにごる

どんなことが結果に影響しそうか、その原因を考えましょう。

実験Aも白くにごったら、どう考えたらいいんだろう？

葉には、緑色ではない部分がある葉もあるよね。
実験に使用した葉に原因

袋が密閉されていなかったり、日光が十分に当たっていなかったりすることが考えられるよ。
実験の操作に原因

でも…「葉に日光を当てると…」と考えるならば、葉がない場合がどうなるかも確かめないとイケないんじゃないかな。
条件制御の不備について指摘

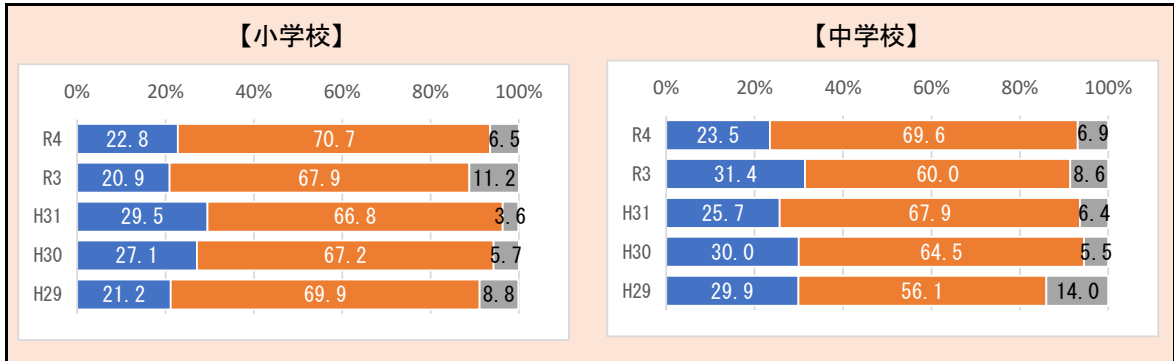
予想や仮説と異なる結果が出た場合を想定

学校運営に関する状況

学校 質問紙	(17)	児童（生徒）の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか
-----------	------	--

高知県（経年）

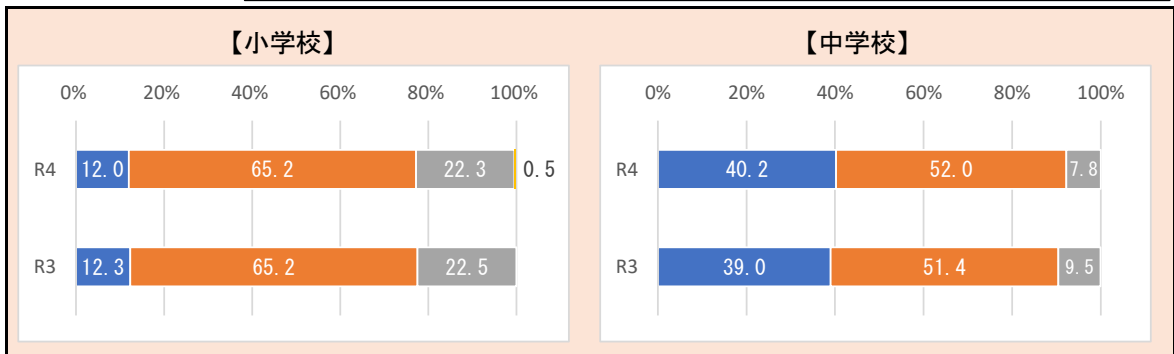
■よくしている ■どちらかといえば、している ■あまりしていない ■全くしていない



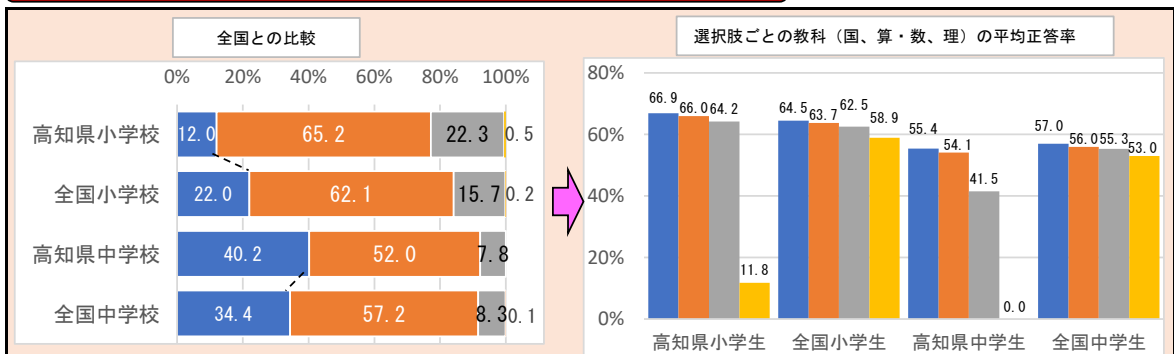
学校 質問紙	(38)	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組をしましたか
-----------	------	--

高知県（経年）

■よく行った ■どちらかといえば、行った ■あまり行わなかった ■全く行わなかった



令和4年度調査結果から見られた質問項目（38）と正答率との相関



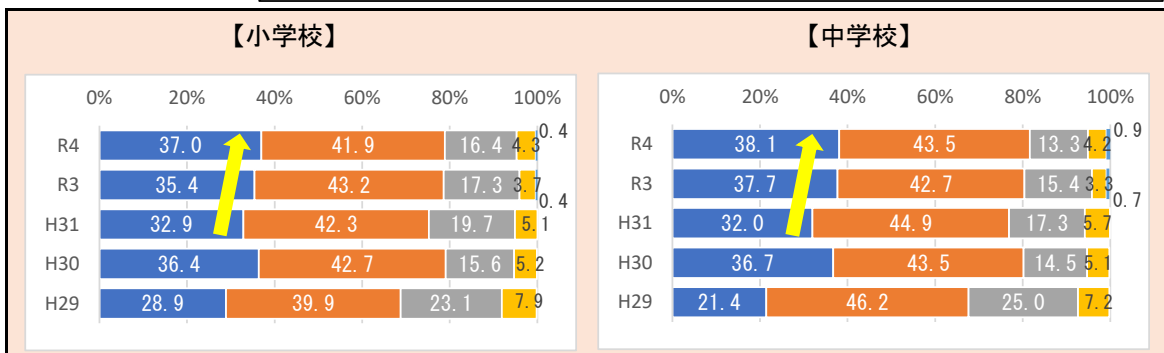
「前年度までに、創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組をよく行った」と回答した学校の割合が、全国と比較すると、小学校では-10.0ポイント、中学校では+5.8ポイントとなっている。学力との相関関係では、肯定的な回答をした学校ほど、教科の平均正答率が高い傾向がみられる。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

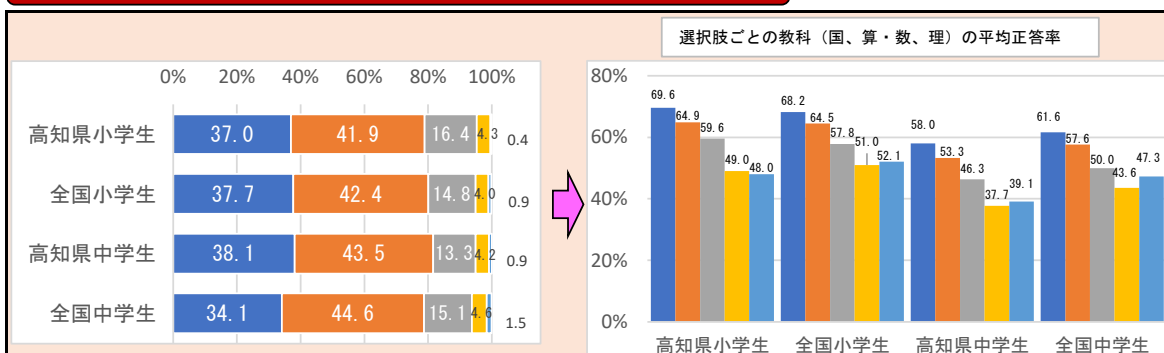
児童・生徒 質問紙	(43)	学級の友達（生徒）との間で話合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか
--------------	------	--

高知県（経年）

■ 当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない
■ どちらかといえば、当てはまる
■ 当てはまらない
■ 学級の友達との間で話し合う活動を行っていない



令和4年度調査結果から見られた質問項目（43）と正答率との相関



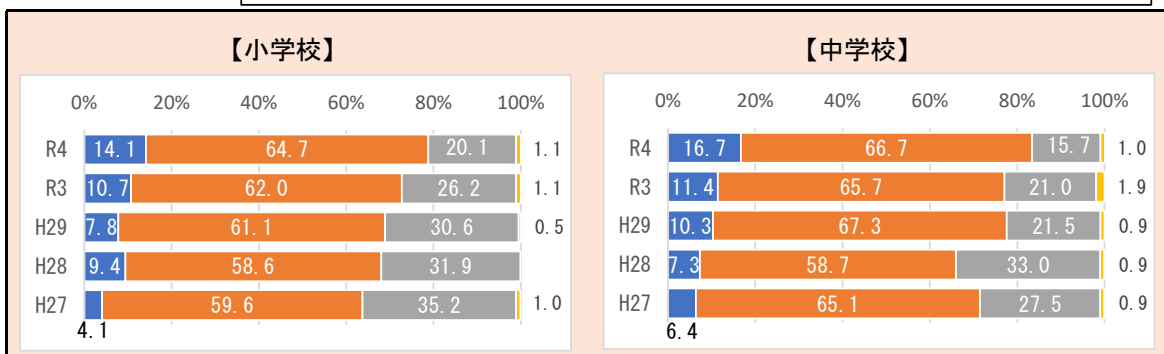
ここ数年、学級の友達（生徒）との間で話合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した児童生徒の割合が上がっており、学力との相関関係でも、肯定的な回答をした児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向がみられる。

※平成31年度以前においては、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」の選択肢であったため、「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を行っていない」と回答した学校がない。

学校 質問紙	(26)	調査対象学年の児童（生徒）は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか
-----------	------	--

高知県（経年）

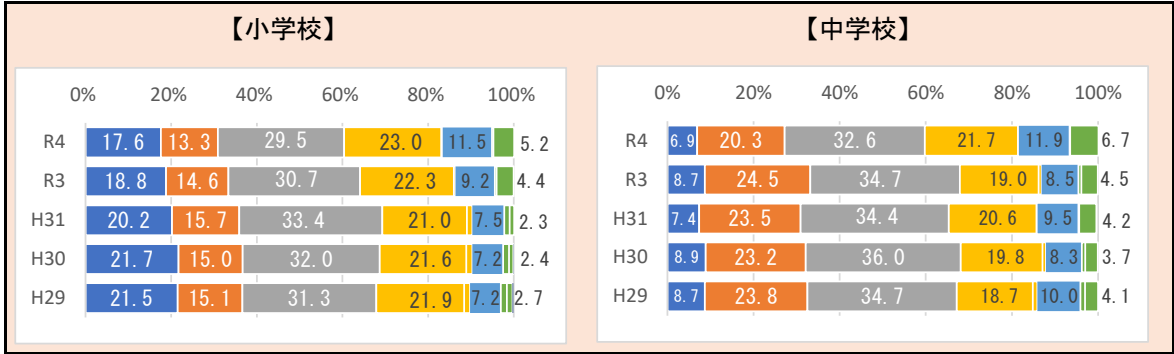
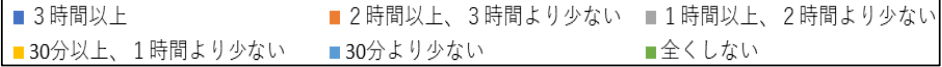
■ そう思う
■ どちらかといえば、そう思う
■ どちらかといえば、そう思わない
■ そう思わない



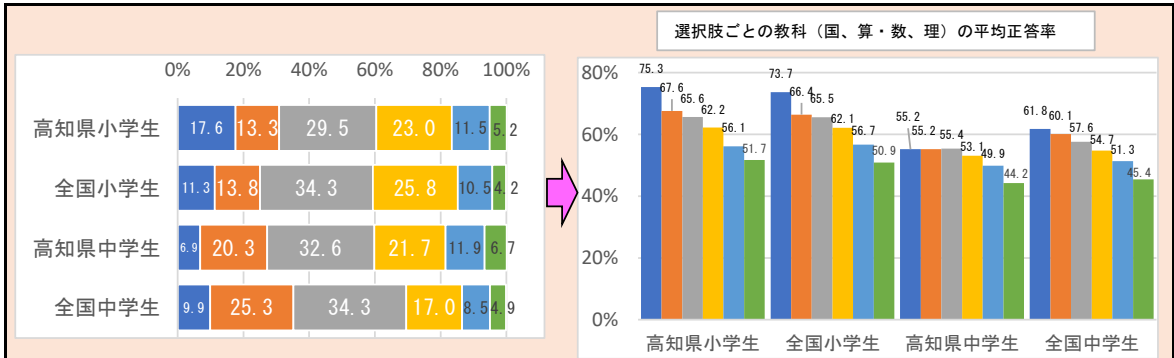
学習習慣

児童・生徒 質問紙	(21)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教えている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）
--------------	------	---

高知県（経年）



令和4年度調査結果から見られた質問項目（21）と正答率との相関

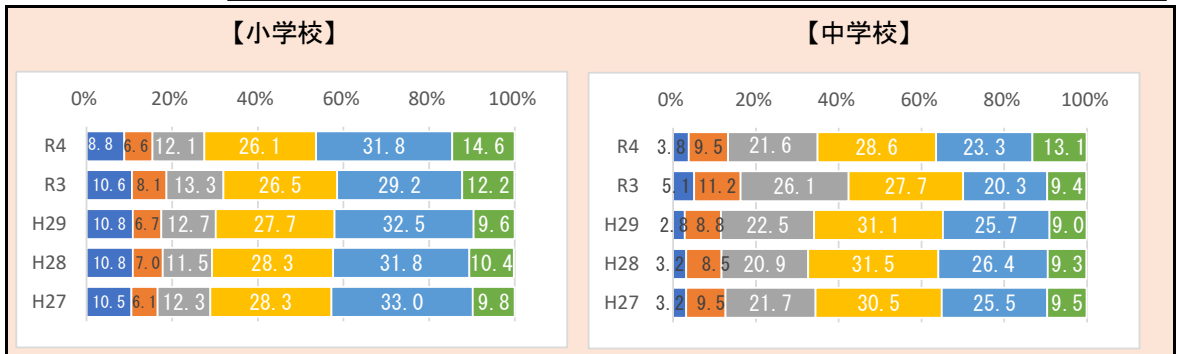


学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり、勉強する時間が長い児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向がみられる。

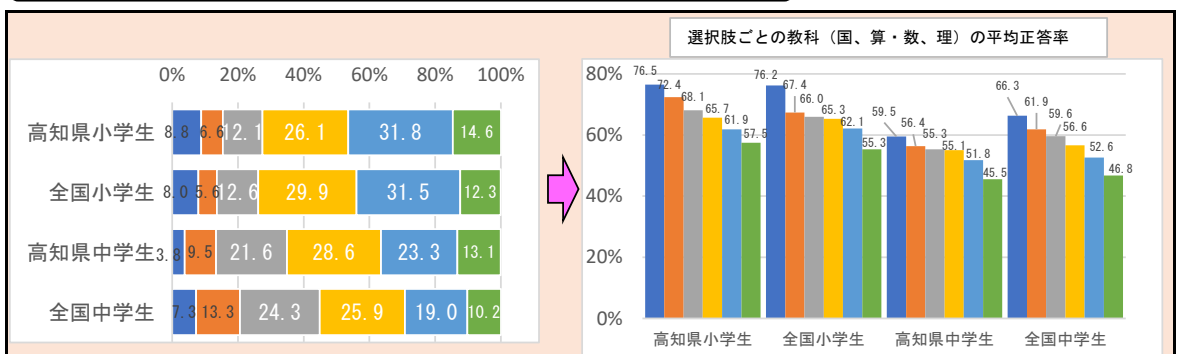
児童・生徒 質問紙	(22)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）
--------------	------	--

高知県（経年）

■ 4時間以上 ■ 3時間以上、4時間より少ない ■ 2時間以上、3時間より少ない
 ■ 1時間以上、2時間より少ない ■ 1時間より少ない ■ 全くしない



令和4年度調査結果から見られた質問項目(22)と正答率との相関

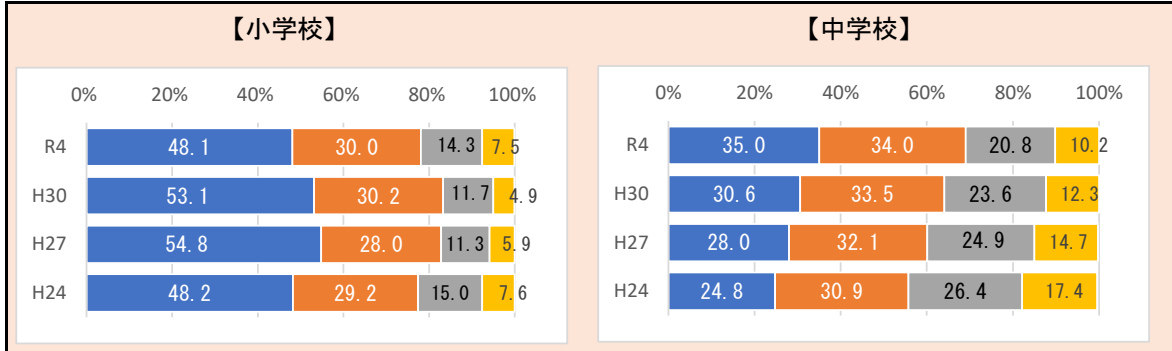


土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり、勉強をする時間が長い児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向がみられる。

学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科）

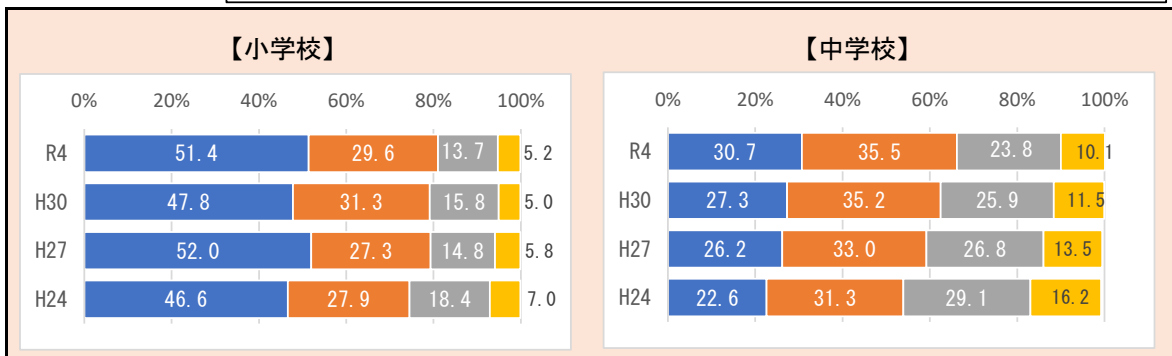
児童・生徒 質問紙	(6 1)	理科の勉強は好きですか
--------------	---------	-------------

高知県（経年） ■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



児童・生徒 質問紙	(6 5)	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
--------------	---------	-------------------------------------

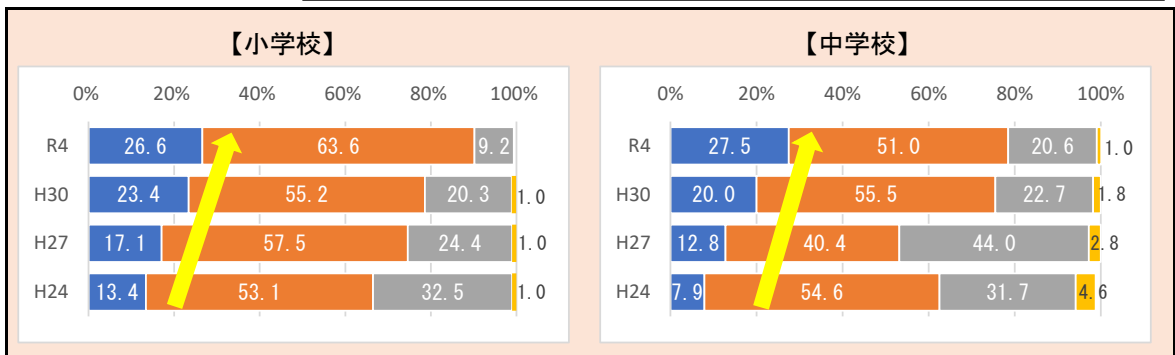
高知県（経年） ■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



学校 質問紙	(52) (51)	調査対象学年の児童（生徒）に対する理科の指導として、前年度までに、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察・実験の計画を立てることができるような指導を行いましたか
-----------	--------------	--

高知県（経年）

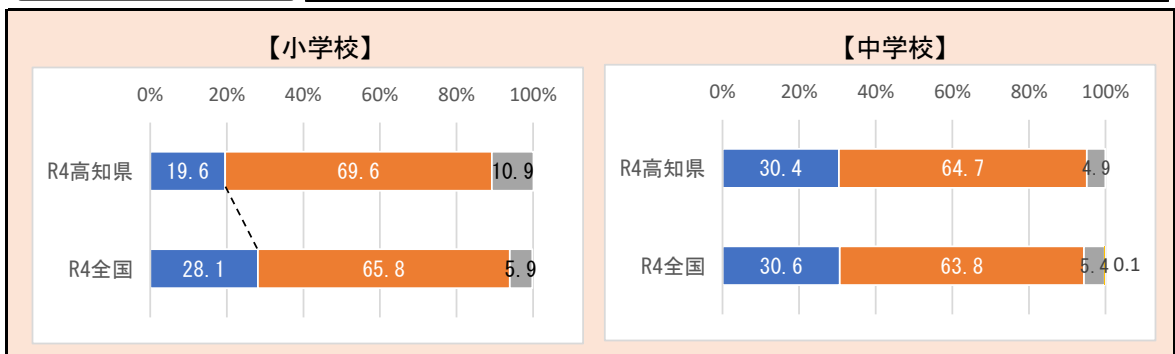
■よく行った ■どちらかといえば、行った ■あまり行わなかった ■全く行わなかった



学校 質問紙	(50) (49)	調査対象学年の児童（生徒）に対する理科の指導として、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか
-----------	--------------	---

令和4年度調査結果

■よく行った ■どちらかといえば、行った ■あまり行わなかった ■全く行わなかった



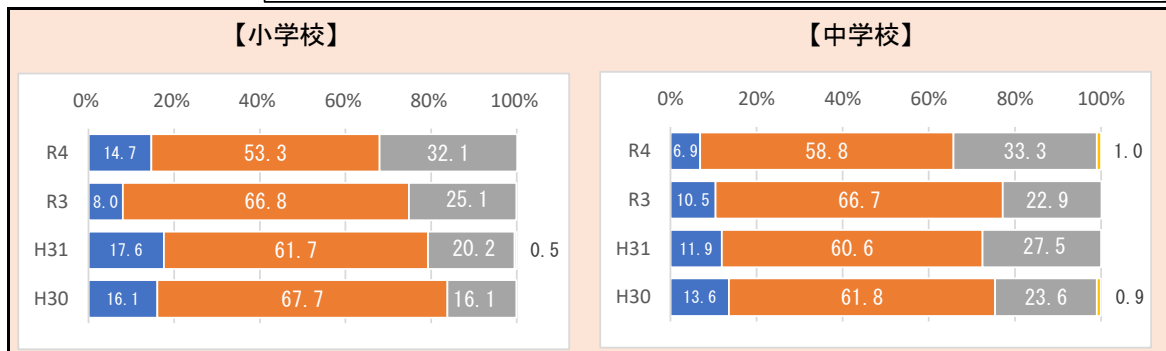
「理科の指導として、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察・実験の計画を立てることができるような指導をよく行った」と回答した学校の割合が上がっている。しかし、「自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導をよく行った」と回答した小学校の割合は、全国と比較すると、低い結果となっている。

地域や社会に関わる活動の状況等

学校 質問紙	(73) (71)	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか
-----------	--------------	------------------------------------

高知県（経年）

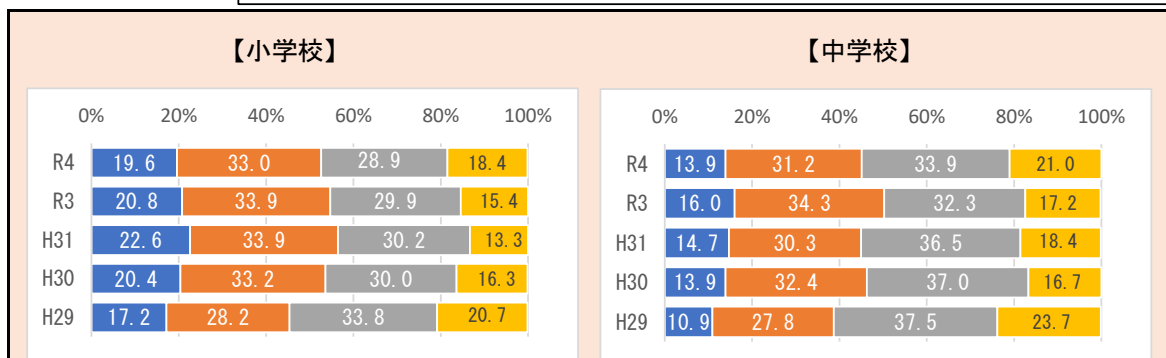
■よくしている ■どちらかといえば、している ■あまりしていない ■全くしていない



児童・生徒 質問紙	(30)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか
--------------	------	---------------------------------

高知県（経年）

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



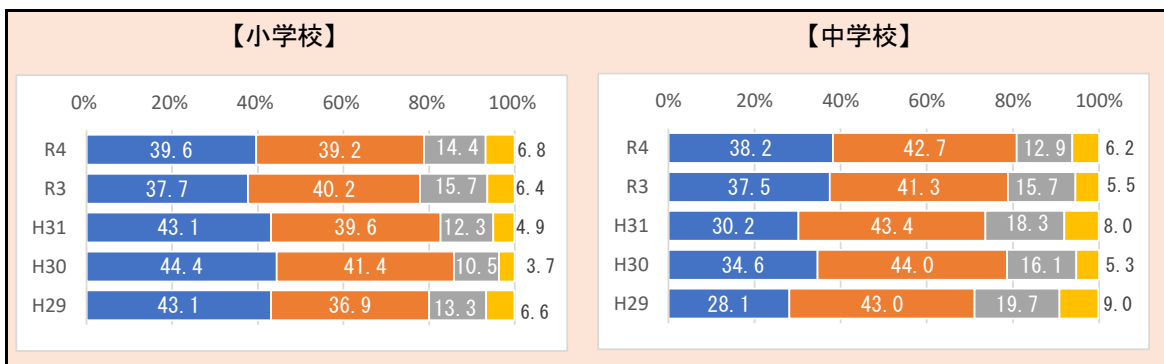
「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校、中学校ともに上昇傾向にあったが、昨年度と比べて、小学校-2.1ポイント、中学校-5.2ポイントと低下している。

自己有用感等

児童・生徒 質問紙	(7)	自分には、よいところがあると思いますか
--------------	-----	---------------------

高知県 (経年)

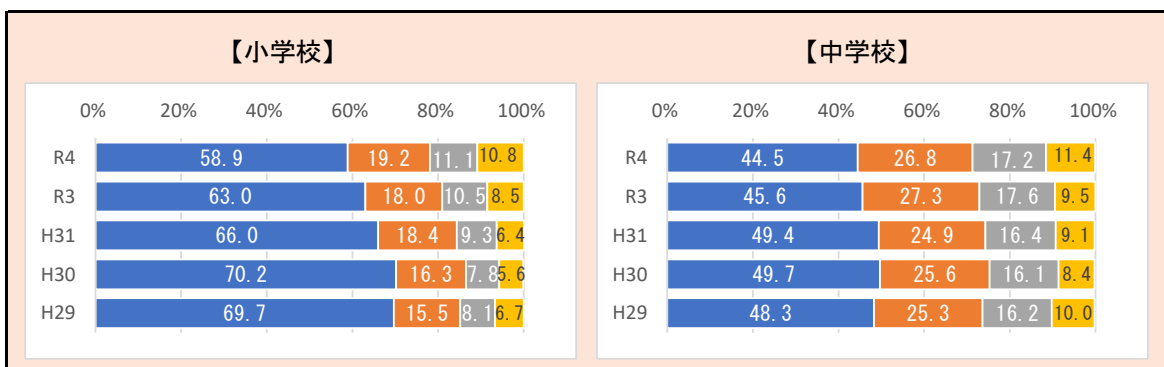
■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



児童・生徒 質問紙	(9)	将来の夢や目標を持っていますか
--------------	-----	-----------------

高知県 (経年)

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

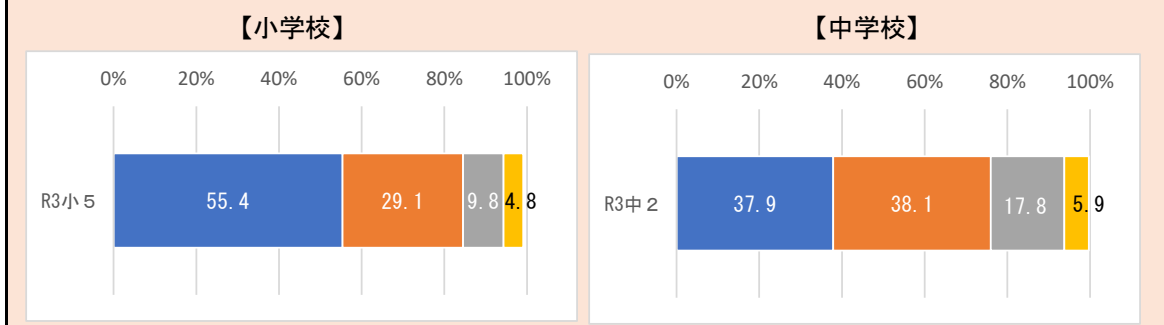


参考：令和3年度高知県学力定着状況調査：質問紙：結果

<同一集団での比較>

将来、あんな人になりたい、こんなことがしたい、こんな仕事につきたいという、夢や目標がありますか

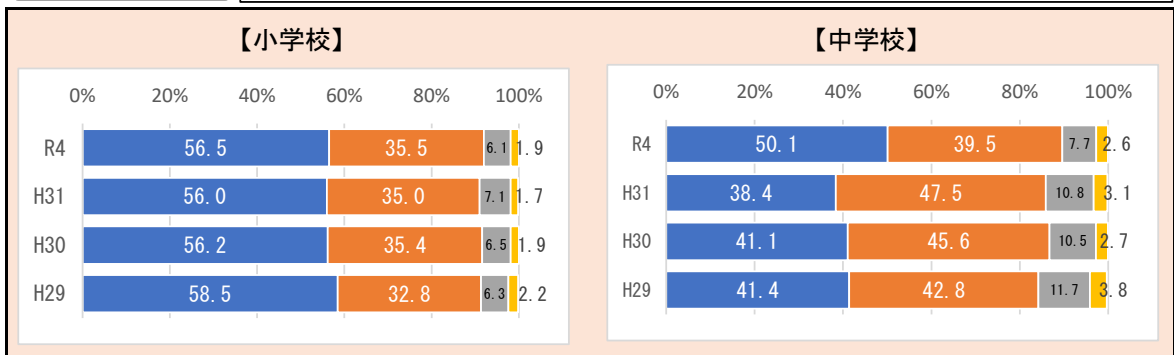
■はっきりした目標がある ■いちおうある ■思いつかない ■まったくない



児童・生徒 質問紙	(8)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
--------------	-------	------------------------------

高知県 (経年)

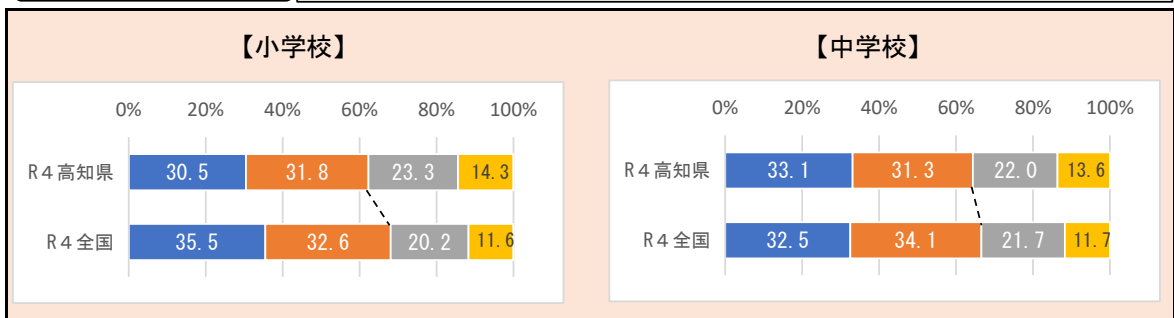
■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



児童・生徒 質問紙	(1 4)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか
--------------	---------	-------------------------------------

令和4年度調査結果

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



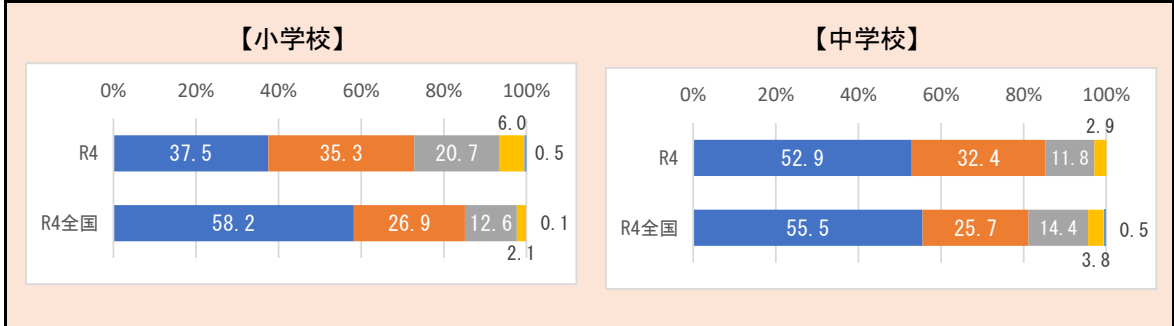
「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校、中学校ともに増加している。一方、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比較して少なくなっている。

ICTを活用した学習状況

学校 質問紙	(59) (57)	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか
-----------	--------------	---

令和4年度調査結果

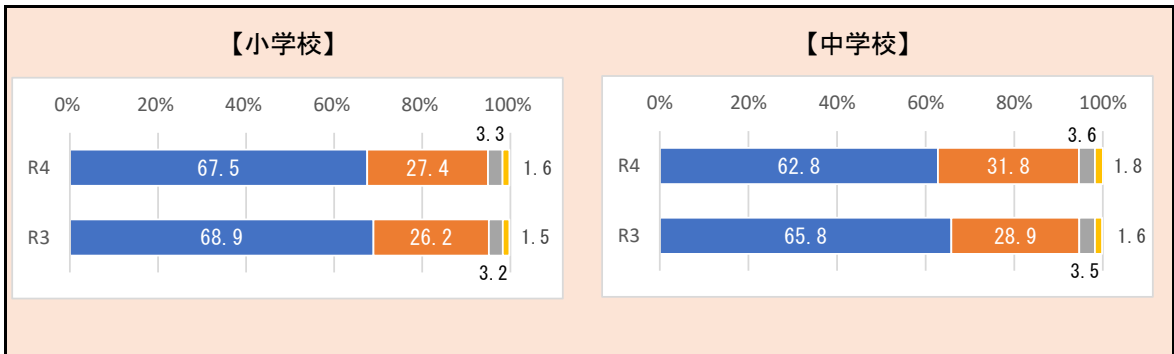
■ ほぼ毎日 ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満



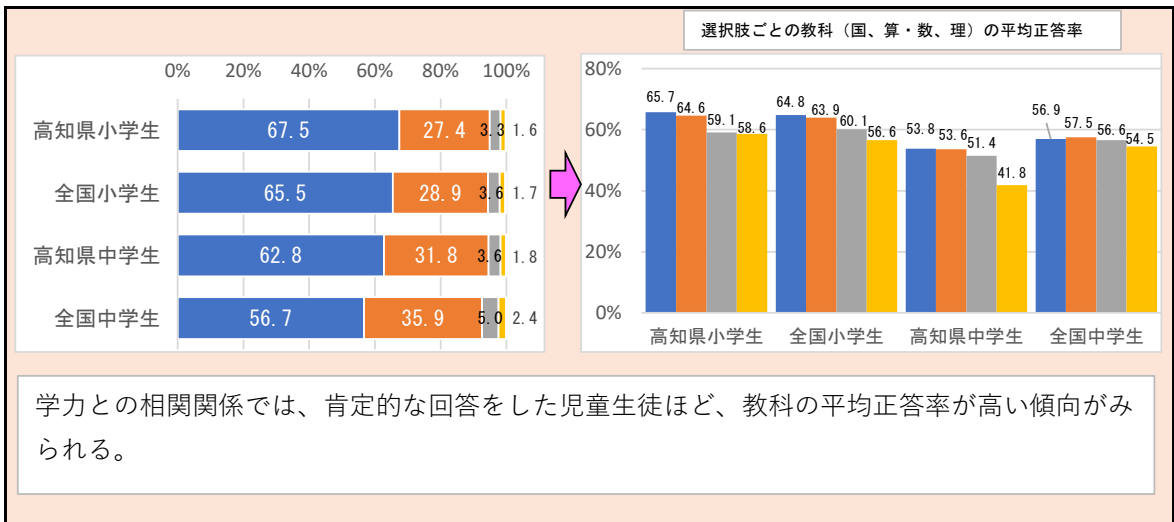
児童・生徒 質問紙	(36)	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか
--------------	------	---

高知県（経年）

■ 役に立つと思う ■ どちらかといえば、役に立つと思う ■ どちらかといえば、役に立たないと思う ■ 役に立たないと思う



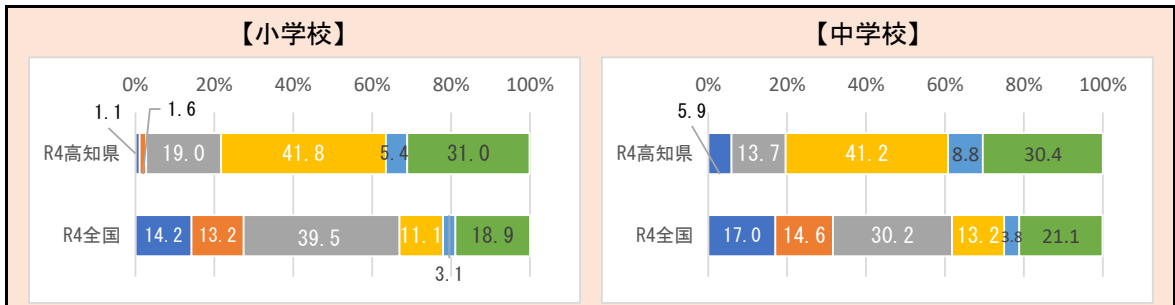
令和4年度調査結果から見られた質問項目（36）と正答率との相関



学校 質問紙	(66) (64)	児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度 家庭で利用できるようにしていますか
-----------	--------------	--

令和4年度調査結果

- 毎日持ち帰って、毎日利用させている
- 時々持ち帰って、時々利用させている
- 持ち帰らせていない
- 持ち帰ってはいけないこととしている
- 毎日持ち帰って、時々利用させている
- 臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとしている



児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を「毎日持ち帰って、毎日利用させている」と回答した学校の割合は、小学校1.1%、中学校5.9%とともに全国より低くなっている。



組織づくり

○学力向上のための学校経営力向上支援事業

学力調査等で明らかとなった学力課題を解決し、児童生徒の生きる力を育成するため、中長期的な視点に立った学校経営計画に基づく学力向上に向けた PDCA サイクルの確立を支援する。

○組織力向上推進事業

小学校教科担任制及び中学校における教科のタテ持ち等による授業改善への取組を一体的に捉え、小・中学校の円滑な接続を図ることにより、義務教育9年間を見通した指導体制を構築する。

授業づくり

○「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善やカリキュラム・マネジメントの充実、ICT を効果的に活用した授業の推進を図る。

○英語教育強化プロジェクト

言語活動を中心とした4技能（聞く・話す・読む・書く）統合型の授業への転換と、ICT を活用し、授業と家庭学習のサイクル化による基礎基本の徹底により、児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。

○言語能力・情報活用能力育成プラン

学校図書館を活用した授業を推進することで、学習の基盤となる言語能力と情報活用能力の向上を図る。

○理科教育推進プロジェクト

児童生徒の理科の知識・技能の習得を図り、思考力・判断力・表現力及び主体的に学習に取り組む態度を育成するために、理科の中核教員を養成・育成し活用することで、授業の改善・充実を図る。また、生徒の科学への興味・関心等を高めるために、科学の甲子園ジュニア高知県大会を開催する。

○情報教育推進教員養成事業

情報教育の中核的な役割を担う教員を養成し、教員の ICT を活用した指導力向上及び、プログラミング教育の授業づくりの質の向上を図る。

地域連携

○道徳教育協働推進プラン

「考え、議論する道徳」の授業の充実と、地域ぐるみの道徳教育の推進により、児童生徒の道徳性の向上を図る。

○キャリア教育強化プラン

小・中・高等学校を通じたキャリア教育を推進するとともに、各地域の特色を生かしたキャリア教育を支援し、児童生徒のキャリア発達を促す。

○中山間地域における特色ある学校づくり推進事業

特色ある学校づくりを目指す市町村教育委員会を支援し、学校と地域の連携・協働による教育活動を充実させることで、社会に開かれた教育課程の実現を目指す。

○コミュニティ・スクール推進事業

市町村教育委員会に対し、学校運営協議会の設置に係る支援を行うことで、地域とともにある学校づくりを推進する。

○放課後等における学習支援事業

小・中学校における放課後等学習支援員の配置の支援を行うことで、放課後等の補充学習を充実させ、基礎学力の定着や家庭学習習慣の確立を図る。